

三重県観光振興基本計画年次報告書

(平成26年度施策実施状況)

平成27年9月

三 重 県

は じ め に

三重県では、観光振興の取組を着実に進め、観光産業を本県経済の牽引産業として大きく育てていくため、平成23年10月にみえの観光振興に関する条例を制定し、同条例に基づき、平成24年3月に三重県観光振興基本計画（平成24年度～27年度）を策定しました。

また、平成24年度からおおむね10年先を見据えた県の戦略計画である「みえ県民力ビジョン」では、観光振興について「観光産業の振興」と「国際戦略の展開」の2つの施策と「世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト」に位置づけています。また、その着実な推進を図るため、平成24年度から4年間の取組を「みえ県民力ビジョン・行動計画」として策定したところです。

平成26年は、第62回神宮式年遷宮「遷御の儀」の翌年にあたるおかげ年であり、神宮の年間参拝者数が2年連続1千万人を突破しました。また、熊野古道世界遺産登録10周年を迎え、伊勢と熊野の二大聖地を結ぶ熊野古道伊勢路を「幸結びの路」として多彩な魅力を発信するキャンペーンの展開や紀勢自動車道延伸など交通アクセスの向上の効果として、熊野古道伊勢路への来訪者数は約43万人で過去最高となりました。

平成25年4月にスタートさせた県、関係行政機関、事業者、観光関係団体、経済団体等が連携し、官民一体となったオール三重で展開する「三重県観光キャンペーン～実はそれ、ぜんぶ三重なんです！～」も2年目を迎え、キャンペーンの核である「みえ旅パスポート」も約40万部の発行となり、「みえ旅案内所」、「みえ旅おもてなし施設」の参加施設も増加し好調に展開しています。

しかしながら、三重県全体の観光レクリエーション入込客数は、前年の4,080万人から、6.3%減の3,824万人となり今後の動向が懸念されるところです。

海外誘客の取組では、ターゲット国・地域に向けての継続的な誘客に取り組むとともに、「昇龍道プロジェクト」と連携等で、本県の外国人延べ宿泊者数は約18万人となり、前年比36.4%増となっています。

今回、作成した年次報告書は、みえの観光振興に関する条例にもとづき、年1回、三重県観光振興基本計画に基づく観光施策の実施状況について公表するものです。

この報告によって、県民の皆さんをはじめ、各種団体や事業者のみなさん、市町等が三重県の観光施策について理解と関心を高めていただき、県とともに観光振興のための取組を推進されることを期待します。

目 次

1	平成27年版成果レポート	1
	施策3.4.2 観光産業の振興	2
	施策3.4.3 国際戦略の推進	7
	新しい豊かさ協創プロジェクト4 世界の人びとを呼び込む観光協創プロジェクト	15
2	三重県観光振興基本計画の概要	21
	三重県観光振興基本計画の目標項目	23
	三重県観光振興基本計画の目標達成状況	24
3	三重県の観光施策の体系	25
4	平成26年度観光施策の取組状況	27
	1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	
	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化	27
	(2) 周遊性・滞在性の向上につながる誘客のしくみづくり	31
	(3) 体験型観光を通じた教育旅行の誘致	34
	2 三重県の特性を生かした海外誘客	
	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	35
	(2) 国及び他府県との広域連携の推進	37
	(3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実	39
	3 観光産業の高付加価値化	
	(1) 観光産業の育成・振興	41
	(2) 観光産業の複合化による新たなツーリズムへの対応	43
	(3) 観光産業の高度化につながる県産品の魅力づくり	46
	4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	
	(1) 観光地づくりを担う人材の育成（「おもてなし」の向上）	48
	(2) 県民の観光行動の促進	52
	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	54
	5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	
	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	58
	(2) 人にやさしい観光地づくり	60
	(3) 観光旅行の安全・安心の確保	62
	(4) 観光振興に資する交通基盤等の構築	64

5 推進体制の整備	66
(1) 計画の推進体制	66
(2) 観光統計の整備	66
(3) 計画の進行管理	66
参考資料	67
○ 三重県観光審議会の審議状況	68
○ 三重県観光の現状（平成26年）	
・ 1 観光レクリエーション入込客数の推移	70
・ 2 地域別観光入込客数の伸び率の推移	71
・ 3 神宮参拝者数累計	72
・ 4 外国人宿泊者数	73
・ 5 男女構成割合	74
・ 6 年齢構成割合	75
・ 7 居住地構成割合	76
・ 7-2 地域別居住地構成割合	77
・ 8 滞在種別構成割合（宿泊・日帰りの別）	78
・ 9 同行者構成割合	79
・ 10 平均滞在時間（日帰り）	80
・ 11 平均宿泊日数	81
・ 12 旅行目的	82
・ 12-2 滞在種別旅行目的	83
・ 13 来訪回数	84
・ 14 交通手段（三重県まで）	85
・ 15 一人あたり観光消費額（宿泊）	86
・ 16 一人あたり観光消費額（日帰り）	87
・ 17 総合満足度	88
・ 17-2 地域別総合満足度（評価点）	89
・ 17-3 居住地別総合満足度（評価点）	90
・ 18 地域別の状況	91
○ 用語の説明	92
○ みえの観光振興に関する条例	96

1 平成27年版成果レポート

(みえ県民カビジョンによる観光施策)

三重県の長期戦略である「みえ県民カビジョン」や中期戦略「みえ県民カビジョン・行動計画」では、観光関係の取組として、2つの施策と1つの選択・集中プログラムを掲げています。

施策等	施策等の目標	主な取組内容	県の活動指標
342 観光産業 の振興	観光消費額の伸び率	基本事業34201 式年遷宮の好機を生かした国内誘客戦略	観光レクリエーション 入込客数
		基本事業34202 三重県を訪れる海外誘客戦略	県内の外国人延べ宿泊者数
		基本事業34203 来訪を促進する観光の基盤づくり	リピート意向率
343 国際戦略 の推進	海外自治体等との連携により新たに創出された事業数(累計)	基本事業34303 海外自治体等と連携した誘客戦略の推進	観光における海外自治体等との連携事業数(累計)
協創4 世界の呼びとを呼び込む観光協創プロジェクト	観光レクリエーション入込客数	実践取組1 式年遷宮を生かした国内誘客戦略の推進	延べ宿泊者数
		実践取組2 観光PRの強化を通じた海外誘客戦略の推進	リピート意向率
			県内の外国人延べ宿泊者数
		実践取組3 観光産業の基盤の強化	海外の自治体等との連携事業数(累計)
			受講生が取り組んだ地域活動数(累計)

(成果レポート)

成果レポートとは、みえ県民カビジョンに定める56の施策と、特に注力すべき政策課題である16の選択・集中プログラム単位ごとに、前年度の県政の取組について評価を行い、その結果を翌年度における取組に生かすものです。

施策 3 4 2

観光産業の振興

【主担当部局：雇用経済部 観光局】

県民の皆さんとめざす姿

県民の皆さん、市町、観光事業者および観光関係団体等との連携により、観光振興の取組が進み、国内外からの誘客が促進されるとともに、県内地域において魅力ある観光地が形成され、観光産業が本県の経済をけん引する産業の一つとして確立され、持続的に発展しています。

平成 27 年度末での到達目標

式年遷宮により全国から本県に注目が集まる絶好の機会を生かした国内外に対する観光宣伝活動の強化、県内での周遊性・滞在性の向上、観光人材の育成等、観光産業の基盤強化を進めるなどの取組が展開され、本県の認知度が高まり来訪者が増加し、観光産業の活性化が図られています。

評価結果をふまえた施策の進展度と判断理由

進展度 *	B (ある程度進んだ)	判断理由	県民指標の目標達成はできませんでしたが、外国人の延べ宿泊者数が目標を達成したことや三重県観光キャンペーン等の実施を通じ三重県の認知度が向上していることを踏まえ、「ある程度進んだ」と判断しました。
----------	----------------	------	---

【*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

県民指標

目標項目	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度		27 年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
観光消費額の 伸び率	/	116	127	127	0.82	127
	100	101	119	104		/

目標項目の説明と平成 27 年度目標値の考え方

目標項目 の説明	観光旅行者が県内において支出した観光消費額（交通費、宿泊費、土産品費、その他の費用）の平成 23 年を 100 とした場合の伸び率
27 年度目標 値の考え方	平成 22 年の観光消費額を基準に、各年の観光レクリエーション入込客数の伸び率に加え、観光旅行者 1 人あたりの観光消費額を 5% 増加させることを目標に、観光消費額を算出し、伸び率を設定しました。

活動指標

基本事業	目標項目	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度		27 年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
34201 式年遷宮 の好機を生かした 国内誘客戦略（雇 用経済部観光局）	観光レクリエ ーション入込 客数	/	3,650 万 人	4,000 万 人	4,000 万 人	0.96	4,000 万 人
		3,565 万 人	3,787 万 人	4,080 万 人	3,824 万 人		/

基本事業	目標項目	23年度	24年度	25年度	26年度		27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
34202 三重県を訪れる海外誘客戦略（雇用経済部観光局）	県内の外国人延べ宿泊者数		100,000 人	120,000 人	135,000 人	1.00	150,000 人
		90,990 人	94,660 人	130,890 人	178,520 人		
34203 来訪を促進する観光の基盤づくり（雇用経済部観光局）	リピート意向率		82.0%	88.0%	94.0%	0.88	100.0%
		77.8%	83.9%	84.5%	83.1%		

（単位：百万円）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
予算額等	914	2,329	721	585	771
概算人件費		243	257	258	
（配置人員）		（27人）	（28人）	（29人）	

平成26年度の取組概要

- ①式年遷宮「おかげ年」の機運を持続させるとともに、平成26年の熊野古道世界遺産登録10周年等の好機を最大限活用し、引き続き、「みえ旅パスポート」の発給促進、「みえ旅案内所」や「みえ旅おもてなし施設」の充実を図るとともに、市町等からなる県内5地域ごとの地域部会による地域連携事業や熊野古道世界遺産登録10周年を記念したNEXCO中日本と連携した高速道路の割引企画「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」ドライブプラン（7月～11月）の実施、旅行商品造成の働きかけなど官民一体となった情報発信や誘客を促進
- ②三重テラスの活用や全国規模の観光展である「ツーリズムEXPO2014」、「OZ女子旅EXPO」（9月）への出展等首都圏等での情報発信を強化
- ③別宮の遷宮、古事記、歴史街道などテーマやストーリーづくりを重視した情報発信、神話、古事記等を通じて共通の話題を有する鳥根県、奈良県、和歌山県等と県域を越えた取組により連携を強化
- ④「みえ国際展開に関する基本方針」に基づき、台湾、タイ、マレーシア、香港、フランスについて、集中的なセールスや「三重県海外観光特使」の委嘱等により、効果的、重点的にプロモーションを実施。特に、台湾については、台北だけでなく、台中や南部の高雄での取組を強化し、台湾全域からの誘客を促進
- ⑤県内企業の海外展開、農林水産物の輸出促進等の取組と一体となり三重県の魅力を総合的にPRし、ビジネス客も含めた海外誘客を促進。また、「昇龍道プロジェクト」など広域連携を進め、中部地域全体で認知度を向上
- ⑥W i - F i等の外国人旅行者の受入環境整備について、みえ旅案内所等への整備を促進
- ⑦本県が世界に誇る観光資源である「海女」や「忍者」に取り組む地域の協議会を支援するとともに、他県の忍者にゆかりのある自治体と連携し、協議会設立に向けた取組を進めることにより、国内外への発信を強化
- ⑧ロケツーリズム、スポーツツーリズム、エコツーリズム等の地域資源を生かしたニューツーリズムに関する情報を三重県観光キャンペーンや熊野古道世界遺産登録10周年などの「周年事業」等を活用し、関係機関と連携して発信
- ⑨障がい者、高齢者など移動に困難を伴う方に、県内のバリアフリー観光情報を発信するとともに、

- 受け入れ側の情報提供機能や相談機能を高めることで、地域におけるコンシェルジュ機能を充実
- ⑩みえICTを活用した産業活性化推進協議会の観光ワーキンググループにおいて、引き続き、観光客の利便性向上や観光産業の振興につながる実証事業の実施に向けた取組を推進
 - ⑪三重県新地震・津波対策行動計画にもとづき、観光防災にかかる人材の育成、課題検討の場づくり、避難訓練を実施

平成26年度の成果と残された課題（評価結果）

- ①三重県観光キャンペーンでは、市町や観光事業者、交通事業者、企業等と連携して「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」のロゴマークを活用した発信を行うことで、三重県の認知度の向上を図っています。また、みえ旅案内所やイベント会場、サービスエリア等において、39万6千部を超える「みえ旅パスポート」を発給するとともに、県内各施設のご協力により、「みえ旅案内所」は15施設増加し102施設に、「みえ旅おもてなし施設」は28施設増加し848施設にサービス提供等を行っていただいています。さらに、高速道路の割引企画「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」ドライブプランを7月から11月まで実施することにより、周遊性及び滞在性の向上や案内機能の充実が図られています。

これまでの官民一体となったキャンペーンの展開により構築した仕組みやみえ旅パスポートのデータを活用し再来訪を促す取組などをより一層進めることで、魅力ある観光地として基盤整備を強化することが必要です。

- ②コアな三重県ファン*づくりをめざし、「たのしいみえののりもの」、「ごほうびスポット三重」、「映画旅文学旅みえ」、「お伊勢さんから始まる旅」などテーマを絞ったパンフレットを発行するとともに、モータースポーツファンに向け、F1ドライバーの小林可梦偉選手の記者会見（7/31）を三重テラスで行うなど、F1開催地としての三重県鈴鹿サーキットのアピールや、平成25年度に引き続き島根県等と連携して記紀や神話をテーマとする講座を開催しました。

今後も、新たなテーマによる情報発信を実施することで、三重ファン、リピーターを増加させることが必要です。

- ③中京圏、関西圏、首都圏等におけるメディアやエージェントを対象に観光交流会、情報提供会を開催し、旬の情報提供を行うとともに、首都圏の20代、30代の女性約1,300名が参加したイベント「OZ女子旅EXPO」や、約15万人の来場者が訪れた全国規模の観光展「ツーリズムEXPO2014」（9月）に出展し、三重の魅力を積極的に発信しました。また、名古屋桜通りカフェにおいて「世界遺産登録10周年！熊野古道・伊勢路フェア」（5/26～6/14）、「夏休みは、やっば三重でしょ！ステキ体験計画」（7/7～12）を開催するなど、地域食材を活用したメニューを提供し、本県の魅力を発信しました。

これまで実施してきたイベントや取組内容等を検証し、より効果的な情報発信を実施することで本県への誘客促進を図ることが必要です。

- ④海外誘客の取組として、台湾については、現地旅行会社へのセールスを継続して実施し、台湾大手靴メーカーによる大規模ハイキングツアーが熊野古道松本峠等で催行（8/26～9/7 全11班600名超）され、地元関係者とともに支援を行いました。また、11月に開催された台北国際旅行博（ITF）に出展し、オープニングセレモニーでは日本代表の一人として知事が参列しテープカットを行うとともに、メインステージで知事が現役海女やアイドルグループ「ALL OVER（オールオーバー）」らとともに「海女」をテーマに三重県の魅力をPRしました。タイやマレーシアについては、本県へのメディアの取材や旅行会社視察により現地での情報発信の機会が増加するとともに、知事によるトップセールス（9/9～9/12）を実施しました。また、平成25年のマレーシアに続き、タイ

及び香港においてもそれぞれ有力旅行社に対して「三重県海外観光特使」を委嘱するなど、誘客促進を図っています。

今後も、重点国・地域を対象にその国の実情に応じた効果的なセールスを展開し、一層の海外誘客を促進する必要があります。

⑤外国人旅行者の利便性向上のため、無料公衆無線LAN（Free WiFi—MIE）をこれまで県内73ヶ所に整備を行ってきましたが、平成26年度も、熊野古道世界遺産登録10周年を迎えた東紀州地域において新たに5ヶ所の整備支援を行いました。今後も、「みえ旅案内所」を中心に整備支援を行っていきます。また、10月から外国人旅行者向けの消費税免税対象品目が拡大されたことから、消費税免税店の拡大を図るための説明会（津市、鳥羽市、伊勢市、熊野市）を開催するとともに、マレーシアやインドネシアなどのムスリム（イスラム教徒）への対応として、ハラル研修会を開催しました。引き続き、外国人旅行者の受入環境を整えていく必要があります。

⑥「海女」については、10月に志摩市で「海女サミットin志摩2014」を開催するなど、海女文化の理解に向けた情報発信に取り組んでいます。また、「忍者」については、2020年のオリンピック、パラリンピックを見据え、世界に誇る観光資源である「忍者」に関連する全国の自治体や民間施設等が連携し「日本忍者協議会（仮称）設立準備会」が発足（3/8）しました。これらの世界に誇る観光資源を引き続き地域と連携しながら国内外に情報発信していく必要があります。

⑦津市美杉等で撮影され平成26年5月に全国で公開された映画「WOOD JOB！～神去なあなあ日常～」や、伊賀市等で撮影され平成27年2月に公開された映画「甥（おとこ）の一生」については、ロケ地マップを作成し上映館、書店に設置するとともに、ロケ地となった自治体や映画製作会社と連携しながら県内外でPRを行いました。

引き続き、県内各地のフィルムコミッションと連携し、ロケ支援に取り組むとともに、ロケツーリズムによる誘客促進を図ることが必要です。

⑧「日本一のバリアフリー観光県推進宣言」に基づき、伊勢志摩バリアフリースターセンターと連携し、パーソナルバリアフリー基準による調査を行った県内の観光施設（約130施設）やトイレ等のバリアフリー情報、体験・アクティビティ情報、交通情報等を取りまとめバリアフリー観光ガイドブックを作成しました。

今後、ガイドブックを活用し、誘客促進、観光案内窓口等のコンシェルジュ機能の向上とともに県内におけるバリアフリー観光の機運醸成を図っていく必要があります。

⑨みえICTを活用した産業活性化推進協議会の観光ワーキンググループにおいて、参画事業者が主体的に2つの実証事業を試みました。引き続き、こうした取組を支援していく必要があります。

⑩安全で安心できる観光地づくりを進めるため、鳥羽市において観光事業者、観光関係団体等を対象に防災セミナーを開催（113名参加）するなどの人材の育成、鳥羽市や紀北町における課題検討の場づくり、亀山市における避難訓練等を行いました。引き続き、市町、観光関係団体等とともに観光地における防災対策の取組を進めていく必要があります。

平成27年度の改善のポイントと取組方向

【雇用経済部 観光局 次長 谷合 隆 電話：059-224-2077】

○①国内誘客については、三重県観光キャンペーンの2年間の取組成果を踏まえ、集大成の年としてキャンペーン後も見据え事業を展開します。具体的には、みえ旅パスポートのデータを活用したステージ達成者への誘客促進に取り組むほか、「みえ旅案内所」へのWiFiの整備支援等による案内機能の充実、「みえ旅おもてなし施設」への協力店舗の増加等による来訪者へのおもてなしの見える化を図ります。また、キャンペーン後も念頭に置きながら、市町、市町観光協会等と連携した地域

部会により、地域資源を掘り起し一体となって取り組むことで、周遊性・滞在性の向上やおもてなし向上による三重ファン・リピーターの確保とともに、県民の方々にも県内各地を訪れていただけるよう観光行動の促進を図ります。また、割引率を設定した「みえ旅プレミアム旅行券」の発行や、県内各地の体験メニュー等着地型観光商品のプロモーションによる販路拡大により観光消費額の増大を図ります。

- ②情報発信については、三重テラス等を活用しながら首都圏等において、忍者等共通テーマを有する他県との連携や、新たな三重の魅力を掘り起し、テーマ性、ターゲットを絞った情報発信、取組を実施します。
- ③観光の産業化を推進するため、観光消費の増加につながる新商品の開発、サービス産業の人材育成、農林水産物のブランド化などに取り組みます。
- ④海外誘客については、「みえ国際展開に関する基本方針」に基づき、台湾及びタイをはじめとする東南アジアを中心に、「海女」「忍者」「F1」など本県の持つクールジャパン資源を活用した重点的なプロモーションを実施するとともに、割引率を設定した宿泊券や商品券を活用し、誘客の促進を図ります。また、国のVJ（ビジットジャパン）事業による他県との連携や中部北陸9県による「昇龍道」の取組への参画など、広域による誘客を進めます。
- ⑤外国人旅行者向け口コミサイトにおいてキャンペーン等を実施するほか、引き続きフェイスブック等SNSを活用した情報発信や海外からのメディアファム受入を進めることにより、海外における本県の認知度を向上させ、本県に外国人旅行者を誘導します。
- ⑥外国人旅行者の利便性の向上を図るため、外国人旅行者向け消費税免税店の増加を促進するとともに、みえ旅案内所を中心に引き続き無料公衆無線LAN整備の支援を行っていきます。
- ⑦「海女」や「忍者」といった世界に誇る観光資源を活用し、関係自治体等と連携強化を図り事業を展開するとともに、ロケツーリズム、エコツーリズム等、関係機関と連携し強みを活かした情報発信に取り組むことで、本県への誘客促進を図ります。
- ⑧バリアフリー観光情報を掲載したガイドブックを活用し、首都圏等で情報発信することで、新たな観光需要の創出を図るとともに、地域の観光案内所と連携してバリアフリー観光のコンシェルジュ機能を強化します。また、NPOや市町、観光事業者、医療・福祉関係者、交通関係者などとのネットワーク構築や県内のバリアフリー観光の機運醸成を図りながら「日本一のバリアフリー観光推進県」の実現に向けて取り組みを進めます。
- ⑨みえICTを活用した産業活性化推進協議会の観光ワーキンググループにおいて、事業者の主体的な取組が進展するようワーキンググループの運営に努めます。
- ⑩観光地における防災対策については、市町、観光事業者と連携し、引き続き、観光防災に関する課題検討の場づくりや人材育成に取り組めます。
- ⑪三重県観光キャンペーン、インバウンドの取組成果や課題を踏まえ、県内での観光消費額の拡大、観光の産業化の実現等の観点から三重県観光振興基本計画（平成28年度～31年度）の策定に取り組めます。
- ⑫「伊勢志摩サミット」開催に向け、国際観光地としてのレベルアップに向けた取組を開始するとともに、サミット開催の好機を生かし、さらなる観光誘客につながる取組を検討します。

*「○」のついた項目は、平成27年度に特に注力するポイントを示しています。

施策 3 4 3

国際戦略の推進

【主担当部局：雇用経済部】

県民の皆さんとめざす姿

姉妹・友好提携先に加えて、欧米やアジアなど、今後結びつきを強める必要のある地域を設定し、産業や観光、文化などのさまざまな分野で横断的に取り組むことにより、世界から優れた企業、人材の呼び込み県内企業の海外展開が進み、地域に新たな活力と価値が創造されています。

平成 27 年度末での到達目標

国際社会のグローバル化に対応するため、姉妹・友好提携先や各国の駐日大使館等との連携を強化するとともに、新たな国際ネットワークを構築し、海外に向けて県の持つ高い技術や観光資源等の魅力を発信することにより、海外自治体等との連携が進み、文化、経済的交流が活性化しています。

評価結果をふまえた施策の進展度と判断理由

進展度 *	A (進んだ)	判断理由	県民指標及び活動指標について、全て目標値を達成したことから「進んだ」と判断しました。
----------	------------	------	--

【*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

県民指標

目標項目	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度		27 年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
海外自治体等との連携により新たに創出された事業数（累計）	/	5 件	20 件	(達成済)	1.00	20 件
	—	15 件	31 件	49 件		/

目標項目の説明と平成 27 年度目標値の考え方

目標項目の説明	海外の自治体や駐日大使館等との連携から、新たに生まれた産業や観光、文化関連の事業数
27 年度目標値の考え方	海外とのネットワークを強化するため、海外自治体等との連携事業を年間 5 件程度実施し、4 年間で 20 件の連携事業を実施することを目標と設定しました。

活動指標

基本事業	目標項目	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度		27 年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
34301 国際交流・貢献活動のネットワーク化の推進（雇用経済部）	みえ国際協力大使数（累計）	/	140 人	160 人	180 人	1.00	200 人
		125 人	142 人	163 人	182 人		/

基本事業	目標項目	23年度	24年度	25年度	26年度		27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
34302 企業活動を支える国際的なネットワークづくりの推進（雇用経済部）	新たに連携構築を行った国際的なネットワークの数（累計）		1件	2件	4件	1.00	6件
		—	1件	3件	7件		
34303 海外自治体等と連携した誘客戦略の展開（雇用経済部観光局）	観光における海外自治体等との連携事業数（累計）		2件	5件	（達成済）	1.00	10件
		—	3件	10件	14件		

（単位：百万円）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
予算額等	78	90	106	84	92
概算人件費		144	120	178	
（配置人員）		（16人）	（13人）	（20人）	

平成26年度の取組概要

- ① 「みえ国際展開に関する基本方針」に基づき、長期的視点から次なる成長市場に対応した新たなネットワークづくりを進めるとともに、これまでに構築したネットワークを活用する具体的な取組を展開
- ② 産官学金が一体となって海外展開に取り組むため「三重県企業国際展開推進協議会」を設置（6月）するとともに、同協議会と、観光誘客、農林水産品等の輸出促進及びライフイノベーション*に係る海外展開の各協議会が連携して、「オール三重」のミッション団派遣や中期戦略の協議、情報共有等を行う「みえ国際展開推進連合協議会」を設立（8月）
- ③ 台湾関係（観光）について、台湾の旅行会社との関係を重視し、観光説明・商談会や旅行博出展、物産展開催などを通じ、連携を強化するとともに、観光交流協定（平成25年10月締結）に基づき、新北市との相互交流を推進。また、台北だけでなく、台中や南部の高雄での取組を強め、台湾全域からの誘客を促進
- ④ 台湾関係（産業）について、台日産業連携推進オフィス（TJPO）との産業連携に関する覚書（MOU）に基づき、若手経営者交流会の開催など相互交流、三重大学や日本貿易振興機構（ジェトロ）、公益財団法人三重県産業支援センター等と連携した台湾と県内企業との技術連携の取組を推進
- ⑤ 三重県海外ビジネスサポートデスク（中国及びアセアン）を活用した、セミナー開催等による海外展開に関する情報提供、個別相談会等での相談対応及び海外現地における商談機会を提供
- ⑥ ブラジルについて、サンパウロ州との共同宣言に記載された4分野の取組を推進していくため、教育、環境ならびに気候変動、商工業、観光の分野につき、情報の共有や具体的な取組の検討を進め、県内環境関連企業のブラジルへの展開可能性調査、ブラジル旅行会社の招へいなどの事業を実施
- ⑦ 外資系企業の動きを敏感に察知するため、各国の大使館などのネットワークをしっかりと継続。また、海外の展示会への参加など、三重県単独では取り組みにくい事業でグレーター・ナゴヤ・イニシアティブ協議会（GNI）*の機能を十分に活用できる事業を推進。さらに、競争力のある外資系企業を誘致するため、欧米等の先進国における研究機関や地域との連携を強めそのネットワークを活かした効果的な誘致活動を進めるとともに、本県の高度部材*産業群などの強みを生かした産

業連携を模索

- ⑧ 外国人観光客の誘客について、「昇龍道プロジェクト」など広域連携を中部運輸局や中部広域観光推進協議会と一体となって推進し、地域全体で知名度を向上。また、W i e F i等の外国人観光客の受入環境整備につき、みえ旅案内所等への整備を促進
- ⑨ タイ、マレーシア、香港、フランスなどからの誘客について、集中的なセールスや三重県海外観光特使の委嘱等により、重点的にプロモーションを実施。加えて、観光誘客のみならず、産業や物産と一体となって三重県の魅力を総合的にPRし、ビジネス客も含めた誘客を促進
- ⑩ 外国人による三重県情報の発信について、在住外国人を対象にしたイベントへの参加、国の外国人学生招聘事業への協力など、機会を捉え実施
- ⑪ 環境関連技術・製品等の海外展開可能性調査の実施をはじめとする、(公財)国際環境技術移転センター(ICE T T)と連携した県内環境関連企業等の海外展開を促進
- ⑫ 大使館等とのネットワーク構築について、大使、総領事等の来県のを機会などを効果的に活用し、関係を強化
- ⑬ 外国大使館等とのネットワーク構築について、「三重県農林水産物・食品輸出促進協議会」を活用しながら関係者との連携を推進
- ⑭ 148の国と地域、国際機関の参加が予定されるミラノ国際博覧会は、世界中から数多くの来訪者が訪れ、出展国の中で最大級の規模となる日本館の取組と連携して日本の中の三重の魅力を「食」を通じてPRできる絶好の機会であることから、事前に実施した可能性調査の結果を踏まえて、出展に向けた内容等を検討
- ⑮ 知事ミッションの成果や包括協定締結企業との連携により、三重県の総合観光物産展「三重県フェア」をイオンマレーシアで開催するとともに、平成27年度の開催に向け、台湾・香港・マレーシア等での実施を検討
- ⑯ 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ地誘致を推進するため、推進本部・市町等連絡会議の開催等
- ⑰ 文化交流ゾーンを構成する施設等が、世界遺産登録10周年を迎えた「熊野古道」をテーマに展覧会やセミナー等を実施
- ⑱ 主要国首脳会議(サミット)関係閣僚会合の本県での開催誘致に向け、平成26年10月に官民一体で構成する「2016年みえ伊勢志摩サミット関係閣僚会合誘致推進協議会」を設立。首脳会議(サミット)の誘致も視野に入れ調整を行い、様々な情勢の変化があったことから、平成27年1月に、首脳会議(サミット)の誘致を表明し、「2016年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会」に名称変更、誘致活動を展開

平成26年度の成果と残された課題(評価結果)

- ① 官民が一体となって各分野が連携して取り組む「みえ国際展開推進連合協議会」において、県内企業等の国際展開に取り組みました。8月下旬のアメリカミッションでは、航空宇宙産業、ヘルスケア産業、食関連産業などの成長分野の産業をターゲットにし、ワシントン州政府とのMOU(覚書)やテキサス州サンアントニオ市とのLOI(基本合意書)を締結するなど、自治体間での産業連携の協力関係を構築することで、今後の具体的なビジネス交流や人材育成を進めるための環境整備を行いました。また、9月上旬のアセアン・インドミッションでは、行政間などの新たなネットワークの構築を図るため、インドでは、航空機産業の中心地であり、ICT企業が集積しているカルナタカ州と産業連携に関するMOU(覚書)を締結し、アセアンでは、既に(平成25年11月)、MOU(覚書)を締結しているタイ投資委員会(BOI)との意見交換など、さらなるネットワークの

強化に取り組みました。11月上旬には、台湾へミッション団を派遣し、台日産業連携推進オフィス（TJPO）との間で産業連携推進プランを締結しました。なお、これらの動きとあわせて、大学や商工団体等においても、ネットワークの構築が図られました。今後は、MOU等を締結した国・地域の産業支援機関等と連携し、県内中小企業の具体的なビジネス交流や人材育成に向けた取組を進めていく必要があります。

- ② 5月に開催されたイギリス・ロンドンでのジェトロ主催の対日投資セミナーにおいて、三重県のビジネス環境や外資系企業誘致施策及びその実績、さらには忍者や伊勢神宮、「食」など三重県の魅力を総合的にPRするプレゼンテーションを実施しました。また、9月のアセアン・インド経済産業交流ミッションでは、インド・バンガロールでのビジネスセミナー及び交流会をジェトロの協力を得ながら開催し、本県及び県内企業が有するポテンシャルを紹介するプレゼンテーションを行ったうえで、現地企業等とのネットワークづくりの機会を提供しました。そのほか、マレーシア・クアラルンプールでは、9月にジェトロ・クアラルンプール事務所主催の食品販路開拓商談会に県内食品関連企業が参加したほか、1月末には同事務所の協力の下、自動車関連分野における具体的な産業連携に向けた現地調査を実施しました。
- ③ 三重県海外ビジネスサポートデスクについて、ジェトロ等と連携しながら、県内企業の海外展開に関する相談等に対してサポートを行ったほか、中国での販路開拓に向けて、中国最大のインターネットモールへの試験販売や展示会への出展支援に取り組みました。また、9月のアセアン・インド経済産業交流ミッションでは、タイ投資委員会（BOI）と三重県アセアンビジネスサポートデスクが連携しながら、タイ・バンコクにおいてセミナー及び意見交換会を開催するなど、ミッション団派遣の支援を行いました。今後は、「三重県企業国際展開推進協議会」等の具体的な取組に対して、三重県海外ビジネスサポートデスクが県内企業のニーズの汲み取りや現地関係機関との仲介役の機能を果たしていくほか、世界経済の情勢変化に応じた新たな取組を進めていく必要があります。
- ④ 友好提携先との交流について、6月に名古屋市で開催された「ブラジルフェスタ 2014」において、三重県ブースを出展し、観光、国際交流や多文化共生をPRするとともに、ゴム手裏剣投げなど三重の忍者文化を体験する取組を実施しました。さらに12月には県として初めてブラジルの日系旅行会社2社及び日系新聞社1社を招へいし、旅行商品造成や三重県情報のメディアでの発信を促すため、県内の観光施設等の視察事業を行いました。また、平成25年度のブラジルミッションを契機に、様々な形で提言活動を行ってきたブラジル人への短期滞在査証の免除について、その最初のステップとなるマルチビザの導入決定が、安倍総理の8月の訪伯に際し両国間で発表された共同声明の中に盛り込まれました。今後は、マルチビザの早期導入を働きかけるとともに、ブラジル旅行会社の招へいによる誘客促進、ICETTへのサンパウロ州からの研修生受け入れに向けた調整、ICETTのネットワーク等を活用した環境に係る課題やニーズの把握などに取り組み、今後の展開につなげていく必要があります。一方、中国河南省との交流については、平成28年度に友好提携30周年を迎えるため、河南省政府と周年事業の内容等につき調整を行っていく必要があります。
- ⑤ 外資系企業の誘致について、5月にフランスを訪問し、商社と連携してヨーロッパを代表する航空機製造企業などと意見交換を、7月にイギリスを訪問し、GNI協議会と連携してファンボローエアショーに参加し各国の航空産業クラスターと意見交換を、8月にアメリカを訪問し、外資系航空機産業などの誘致に向けた活動を実施したところです。今後は、これまでの海外ミッション等で構築したネットワークを活用し、県内への投資につなげていく必要があります。また、外資系企業の県内への誘致に向けて、多くの外資系企業や大使館等が集まる首都圏においても、積極的なPR活動を展開していく必要があります。加えて、外資系企業による県内投資をさらに呼び込むための立地環境整備を行っていく必要があります。

⑥ 海外誘客の取組として、台湾については、現地旅行会社へのセールスを継続して実施し、台湾大手靴メーカーによる大規模ハイキングツアーが熊野古道松本峠等で催行（8/26～9/7 全11班 600名超）され、地元関係者とともに支援を行いました。また、11月に開催された台北国際旅行博（ITF）に出展し、「海女」をテーマに三重県の魅力をPRしました。タイやマレーシアについては、本県へのメディアの取材や旅行会社視察により現地での情報発信の機会が増加するとともに、知事によるトップセールス（9/9～9/12）を実施しました。また、平成25年のマレーシアに続き、タイ及び香港においてもそれぞれ有力旅行社に対して「三重県海外観光特使」を委嘱するなど、誘客促進を図っています。

今後、重点国・地域を対象にその国の実情に応じた効果的なセールスを展開し、一層の海外誘客を促進する必要があります。

⑦ 外国人旅行者の利便性向上のため、無料公衆無線LAN（Free WiFi-MIE）をこれまで県内73ヶ所に整備を行ってきましたが、平成26年度も、熊野古道世界遺産登録10周年を迎えた東紀州地域において新たに5ヶ所の整備支援を行いました。今後も、「みえ旅案内所」を中心に整備支援を行っていきます。また、10月から外国人旅行者向けの消費税免税対象品目が拡大されたことから、消費税免税店の拡大を図るための説明会（津市、鳥羽市、伊勢市、熊野市）を開催するとともに、マレーシアやインドネシアなどのムスリム（イスラム教徒）への対応として、ハラル研修会を開催しました。引き続き、外国人旅行者の受入環境を整えていく必要があります。

⑧ 県内環境関連企業の海外展開の足掛かりとするため、国際協力機構（JICA）や環境省等の事業への申請について、ICETTや三重県海外ビジネスサポートデスクと連携して支援を行った結果、県内中小企業による環境省事業や新エネルギー・産業技術開発機構（NEDO）事業の獲得につながりました。また、中部経済産業局やICETT等関係機関と中部地域における環境ビジネスの海外展開等について、意見交換及び情報共有等を行いました。今後は、本県やICETTのネットワーク等を活用し、環境に係る課題やニーズを調査・把握するとともに、インド、アセアンについては、ミッションにおいて構築したネットワークをさらに強化していくなかで、今後の展開につなげていく必要があります。

⑨ 大使館等とのネットワークについて、4月に駐日米国大使が来県された際、昼食会や植樹式などで日米親善交流を深めたほか、5月に駐日中国大使、駐日英国大使、駐日フィンランド大使、7月に駐日インド大使を訪問するなど各国とのさらなる関係強化に努めました。また、米国、ブラジル、英国、フランス、オランダ、フィンランド、中国、台湾、タイ、インドネシア、カナダ、インド、韓国、フィリピン、ベトナム、ドイツ、スペイン、スイス、ボリビア等の駐日大使館・領事館関係者などとの交流により関係強化を図ったほか、著名人の来県を契機とした県内産業や観光地のPRや関係強化に努めました。今後も、様々な機会を捉え、各国との関係強化や本県のPRに努めていく必要があります。

⑩ 県産農林水産物等の輸出については、三重県農林水産物・食品輸出促進協議会会員に対して輸出に向けた商品登録を促し、平成26年度実施した台湾、タイでの物産展等のバイヤーに商品提案を行いました。また、6月には台湾で行われた国際見本市に出展し、販路開拓を支援するとともに、輸出に向けた基礎知識の習得を目的としたハラル研修会、11月にはJETRO相談員による個別相談会、10～2月にかけて台湾及びタイにて三重県物産展開催によるニーズ調査などを実施しました。今後はこれまで取り組んできた物産展によるニーズ把握から商談会や見本市等BtoBの商談機会の創出に重点を移していく必要があります。また、事業者の輸出に関する知識向上等を図っていく必要があります。

- ⑪ ミラノ国際博覧会への出展に向け、三重の「食」にまつわる魅力を発信し、日本の中の三重県という地域の認知度向上を図る日本館出展事業と、ミラノ市内で実施するテストマーケティング事業の内容を固め、出展事業計画を確定させていきます。また、今回の出展を契機に欧州市場での販路開拓やインバウンドの拡大につなげていく必要があります。
- ⑫ 平成 26 年 9 月に、イオンマレーシアの旗艦店 2 店において、三重県フェアを開催し、知事のトップセールスや忍者という強力なコンテンツの発信により、効果的な情報発信を行うとともに、37 社の事業者が参加し、本格的な海外展開の契機となりました。平成 27 年度は、台湾・香港・マレーシアにおいて、4 回の三重県フェアを開催することとし、実施に向けて、関係者等と連携して取り組んでいく必要があります。
- ⑬ 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ地誘致の実現に向けて、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や中央協議団体等から情報収集を行うとともに、推進本部及び市町等連絡会議を開催しました。今後も、誘致の実現に向けて一層取組を進めていく必要があります。
- ⑭ 熊野古道世界遺産登録 10 周年にちなんだ展覧会やセミナー等の実施により、三重の素晴らしい歴史や文化を県内外に発信することができました。今後も引き続き、文化交流ゾーンを構成する施設等が連携を強化し、その魅力を発信していく必要があります。
- ⑮ 平成 28 年に日本で開催される予定の主要国首脳会議（サミット）について、官民一体で構成する「2016 年みえ伊勢志摩サミット誘致推進協議会」を中心に誘致活動を進めた結果、本県での開催が決定しました。今後、本県が地方創生の先駆けとなるよう、また、県民の皆さんの生活への影響は最小限に抑え、日本人の精神性や豊かな伝統、文化、美しい自然や日本のふるさとの原風景などを感じていただけるよう、万全の態勢でサミットを成功させる必要があります。

平成 27 年度の改善のポイントと取組方向

【雇用経済部 副部長 横田 浩一 電話：059-224-2414】

- ①本県の国際展開に関する取組の進展や世界経済の情勢変化等を踏まえ、国際展開に関する関係者等様々な方からご意見を伺いながら、平成 27 年 7 月を目途に「みえ国際展開に関する基本方針」を改訂するとともに、同方針に基づき、産学官金で構成する「三重県企業国際展開推進協議会」を通じて、県内企業の課題やニーズを的確に把握してきめ細かな支援を行うとともに、官民一体となって各関係協議会等と連携して取り組む「みえ国際展開推進連合協議会」を核として「オール三重」の海外ミッション団を派遣し、本県や各支援機関と現地政府・関係機関等とのネットワークを構築・強化します。こうして構築したネットワークを活用し、海外の産業支援機関等と連携していくため、現地に専門コーディネーターを設置し、県内企業のビジネス交流（企業間ネットワーキング、商談会開催等）や人材育成につながる取組を進めていきます。
- ②「台湾と三重県の産業連携推進プラン」に基づき、産学官連携とグローバル市場の開拓に取り組むとともに、これまで食品加工分野を中心に培った台湾とのビジネス交流をモデルケースとして、他の分野やその他の国・地域へと横展開させ、産学官金が連携した国際展開の取組をより一層推進します。
- ③設置から 4 年目を迎える三重県海外ビジネスサポートデスクについては、これまでの成果と課題や、世界の製造拠点から巨大市場へと変わりつつある中国経済の現状や中間層を中心に所得水準が向上するアセアン市場など世界経済の情勢変化を踏まえ、三重県企業国際展開推進協議会等と連携しながら、製造業の海外展開にとどまらず、県産品の販路開拓など県内企業の海外展開支援をはじめ、観光誘客の促進等、「オール三重」の海外展開支援の取組を進めます。

- ④ブラジルについて、引き続き共同宣言に記載の4分野で具体的な取組を進めていきます。事業の実施にあたっては、サンパウロ州側との連携体制の確保に努めます。また、河南省について、友好提携30周年の取組につき河南省政府と調整を図っていきます。
- ⑤外資系企業の誘致について、GNI協議会、ジェトロ、在日大使館・外国商工会議所等のネットワークに加え、これまで実施してきた海外ミッションで培った企業ネットワークを活用し、県内操業環境などの定期的な情報発信を行うとともに、積極的に誘致活動を行います。また、国際的な立地環境競争力を高めるため、立地環境の整備に向けた検討を行い、国や関係機関と連携して、対日投資の促進につなげていきます。
- ⑥海外誘客については、「みえ国際展開に関する基本方針」に基づき、台湾及びタイをはじめとする東南アジアを中心に、「海女」「忍者」「F1」など本県の持つクールジャパン資源を活用した重点的なプロモーションを実施するとともに、割引率を設定した宿泊券や商品券を活用し、誘客の促進を図ります。また、国のVJ（ビジットジャパン）事業による他県との連携や中部北陸9県による「昇龍道」の取組への参画など、広域による誘客を進めます。
- ⑦外国人旅行者向け口コミサイトにおいてキャンペーン等を実施するほか、引き続きフェイスブック等SNSを活用した情報発信や海外からのメディアファーム受入を進めることにより、海外における本県の認知度を向上させ、本県に外国人旅行者を誘導します。
- ⑧外国人旅行者の利便性の向上を図るため、外国人旅行者向け消費税免税店の増加を促進するとともに、みえ旅案内所を中心に引き続き無料公衆無線LAN整備の支援を行っていきます。
- ⑨県内環境関連企業の海外展開について、これまで実施してきた海外経済ミッションにおいて築き上げたインドやタイ、マレーシアなど環境課題が顕在化してきているアジアの国々とのネットワークやICETTのネットワークを生かし、国等の事業を活用しながら、ビジネスマッチングやその後のフォロー等を行うなかで今後の展開につなげていきます。
- ⑩大使館等とのネットワークについて、引き続き、本県が戦略的に重要と考える国・地域を中心に、大使館、領事館等との良好な関係を維持強化していきます。
- ⑪県産農林水産物等の輸出拡大に向けて、三重県農林水産物・食品輸出促進協議会により、台湾及びタイで、新しい商品のテストマーケティングの場として物産展を継続するとともに、今後、輸出拡大の可能性が高い商品を中心に、展示会や見本市への出展、バイヤーの県内招へいなどBtoBによる商談機会の場の創出に注力していきます。また、アドバイザー等関係者と連携し、輸出に関する知識向上に資する研修会やセミナー等を開催します。
- ⑫消費者ニーズに基づき、需要の見込まれる「メイド・イン・三重」ブランドなど三重県産品について、海外市場への展開を促進するため、県内事業者（生産者、製造業者等）の海外進出、販路拡大の支援に取り組みます。また、アジア市場に翌日配送が可能な沖縄国際物流ハブを活用し、アジア市場に販路ネットワークを有する沖縄県との連携等、三重県産品のアジア市場への展開を促進します。
- ⑬三重の食の欧州市場への情報発信の起点とするミラノ国際博覧会への出展を契機に、テストマーケティングの実施を通じて欧州市場のニーズが高い県産品等の情報を収集するなど、県内事業者の欧州市場での県産品の販路開拓等を促進します。また、「伊勢志摩サミット」の開催を生かした三重の食の情報発信や販路拡大に取り組みます。
- ⑭台湾等での三重県フェア開催に向け、三重県にゆかりのある企業や包括協定企業等としっかり連携し、準備を行うとともに、県内事業者の販路拡大やインバウンドにつながる仕組みづくりに取り組みます。

- ⑮東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ地誘致の実現に向けて、欧州でのPRや中央競技団体等への要望活動を行うなど、関係団体と連携を図りつつ、市町と一体となって取り組んでいきます。
- ⑯世界に誇るみえの歴史・文化を体感できる機会の提供や県内外への情報発信に取り組み、交流人口の増加、地域の活性化に寄与します。
- ⑰「伊勢志摩サミット」の開催に向け、誘致推進協議会を発展させた形で、「伊勢志摩サミット三重県民会議」を設立し、官民一体となった三重県全体の受け入れ体制を確立します。併せて、市町や関係団体等と連携し、「開催支援」に取り組むとともに、サミットを一過性に終わらせることなく、開催後の地域の活性化につなげるため、「おもてなし」、「明日へつなぐ」、「三重の発信」を柱に、サミット開催に向けた全県的な取組を展開します。

* 「○」のついた項目は、平成27年度に特に注力するポイントを示しています。

【主担当部局：雇用経済部 観光局】

プロジェクトの目標

三重県観光の「予感」(三重へ行ってみたい)・「体感」(三重で旅行を満喫)・「実感」(三重は楽しかった、また行きたい)のサイクルが築かれ、観光産業が本県の経済をけん引する産業の一つとして確立されています。そのため、観光旅行者の多様なニーズに対応するさまざまな観光振興の取組を、県民の皆さん、市町、観光事業者、観光関係団体等と連携して進めます。4年後には、観光の基盤づくりが進み、観光旅行者の満足度が向上し、式年遷宮後も観光入込客数が持続的に確保されています。

評価結果をふまえたプロジェクトの進展度と判断理由

進展度 *	B (ある程度進んだ)	判断理由	プロジェクトの数値目標及び一部の実践取組の目標は達成できませんでしたが、5つの実践取組の目標のうち延べ宿泊者数、外国人延べ宿泊者数等4項目で目標を達成できたことから、「ある程度進んだ」と判断しました。
----------	----------------	------	--

【*進展度：A（進んだ）、B（ある程度進んだ）、C（あまり進まなかった）、D（進まなかった）】

プロジェクトの数値目標

目標項目	23年度	24年度	25年度	26年度		27年度
	現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
観光レクリエーション入込客数	/	3,650 万人	4,000 万人	4,000 万人	0.96	4,000 万人
	3,565 万人	3,787 万人	4,080 万人	3,824 万人		/

目標項目の説明と平成27年度目標値の考え方

目標項目の説明	1年間に観光レクリエーション等の目的で県内の観光地を訪れた人数について、全国観光統計基準に基づき集計した推計値
27年度目標値の考え方	平成23年の推計値(33,000千人)に、遷宮効果や震災からの復興を見込んで、過去5年間の平均伸び率である2.6%を上回る年5.2%という挑戦的な数値を用いて、4年後には40,000千人の入込客数をめざし設定しました。

実践取組の目標

実践取組	実践取組の目標	23年度	24年度	25年度	26年度		27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
1「さまざまな主体との連携による観光PR・誘客」に挑戦します!	延べ宿泊者数	/	770 万人	800 万人	800 万人	1.00	800 万人
		756 万人	833 万人	969 万人	879 万人		/
	リピート意向率	/	82.0%	88.0%	94.0%	0.88	100.0%
		77.8%	83.9%	84.5%	83.1%		/

実践取組	実践取組の目標	23年度	24年度	25年度	26年度		27年度
		現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値
2「海外での認知度アップによる来訪者の増加」に挑戦します！	県内の外国人延べ宿泊者数	/	100,000人	120,000人	135,000人	1.00	150,000人
		90,990人	94,660人	130,890人	178,520人		/
	海外の自治体等との連携事業数（累計）	/	2件	5件	（達成済）	1.00	10件
		—	3件	10件	14件		/
3「来訪を促進する観光の基盤づくり」に挑戦します！	受講生が取り組んだ地域活動数（累計）	/	10件	20件	35件	1.00	40件
		—	13件	29件	50件		/

（単位：百万円）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
予算額等	52	251	208	319

平成26年度取組概要

- ①式年遷宮「おかげ年」の機運を持続させるとともに、平成26年の熊野古道世界遺産登録10周年等の好機を最大限活用し、引き続き、「みえ旅パスポート」の発給促進、「みえ旅案内所」や「みえ旅おもてなし施設」の充実を図るとともに、市町等からなる県内5地域ごとの地域部会による地域連携事業や熊野古道世界遺産登録10周年を記念したNEXC O中日本と連携した高速道路の割引企画「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」ドライブプラン（7月～11月）の実施、旅行商品造成の働きかけなど官民一体となった情報発信や誘客を促進
- ②三重テラスの活用や全国規模の観光展である「ツーリズムEXPO2014」、「OZ女子旅EXPO」（9月）への出展等首都圏等での情報発信を強化
- ③別宮の遷宮、古事記、歴史街道などテーマやストーリーづくりを重視した情報発信、神話、古事記等を通じて共通の話題を有する鳥根県、奈良県、和歌山県等と県域を越えた取組により連携を強化
- ④「みえ国際展開に関する基本方針」に基づき、台湾、タイ、マレーシア、香港、フランスについて、集中的なセールスや「三重県海外観光特使」の委嘱等により、効果的、重点的にプロモーションを実施。特に、台湾については、台北だけでなく、台中や南部の高雄での取組を強化し、台湾全域からの誘客を促進
- ⑤県内企業の海外展開、農林水産物の輸出促進等の取組と一体となり三重県の魅力を総合的にPRし、ビジネス客も含めた海外誘客を促進。また、「昇龍道プロジェクト」など広域連携を進め、中部地域全体で認知度を向上
- ⑥Wi-Fi等の外国人旅行者の受入環境整備について、みえ旅案内所等への整備を促進
- ⑦本県が世界に誇る観光資源である「海女」や「忍者」に取り組む地域の協議会を支援するとともに、他県の忍者にゆかりのある自治体と連携し、協議会設立に向けた取組を進めることにより、国内外への発信を強化

- ⑧ ロケツーリズム、スポーツツーリズム*、エコツーリズム等の地域資源を生かしたニューツーリズムに関する情報を三重県観光キャンペーンや熊野古道世界遺産登録10周年などの「周年事業」等を活用し、関係機関と連携して発信
- ⑨ 障がい者、高齢者など移動に困難を伴う方に、県内のバリアフリー観光情報を発信するとともに、受け入れ側の情報提供機能や相談機能を高めることで、地域におけるコンシェルジュ機能を充実
- ⑩ みえICTを活用した産業活性化推進協議会の観光ワーキンググループにおいて、引き続き、観光客の利便性向上や観光産業の振興につながる実証事業の実施に向けた取組を推進
- ⑪ 三重県新地震・津波対策行動計画にもとづき、観光防災にかかる人材の育成、課題検討の場づくり、避難訓練を実施

平成26年度の成果と残された課題（評価結果）

- ① 三重県観光キャンペーンでは、市町や観光事業者、交通事業者、企業等と連携して「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」のロゴマークを活用した発信を行うことで、三重県の認知度の向上を図っています。また、みえ旅案内所やイベント会場、サービスエリア等において、39万6千部を超える「みえ旅パスポート」を発給するとともに、県内各施設のご協力により、「みえ旅案内所」は15施設増加し102施設に、「みえ旅おもてなし施設」は28施設増加し848施設にサービス提供等を行っていただいています。さらに、高速道路の割引企画「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」ドライブプランを7月から11月まで実施することにより、周遊性及び滞在性の向上や案内機能の充実が図られています。

これまでの官民一体となったキャンペーンの展開により構築した仕組みやみえ旅パスポートのデータを活用し再来訪を促す取組などをより一層進めることで、魅力ある観光地として基盤整備を強化することが必要です。

- ② コアな三重県ファン*づくりをめざし、「たのしいみえののりもの」、「ごほうびスポット三重」、「映画旅文学旅みえ」、「お伊勢さんから始まる旅」などテーマを絞ったパンフレットを発行するとともに、モータースポーツファンに向け、F1ドライバーの小林可梦偉選手の記者会見（7/31）を三重テラスで行うなど、F1開催地としての三重県鈴鹿サーキットのアピールや、平成25年度に引き続き島根県等と連携して記紀や神話をテーマとする講座を開催しました。

今後も、新たなテーマによる情報発信を実施することで、三重ファン、リピーターを増加させることが必要です。

- ③ 中京圏、関西圏、首都圏等におけるメディアやエージェントを対象に観光交流会、情報提供会を開催し、旬の情報提供を行うとともに、首都圏の20代、30代の女性約1,300名が参加したイベント「OZ女子旅EXPO」や、約15万人の来場者が訪れた全国規模の観光展「ツーリズムEXPO2014」（9月）に出展し、三重の魅力を積極的に発信しました。また、名古屋桜通りカフェにおいて「世界遺産登録10周年！熊野古道・伊勢路フェア」（5/26～6/14）、「夏休みは、やっぱ三重でしょ！ステキ体験計画」（7/7～12）を開催するなど、地域食材を活用したメニューを提供し、本県の魅力を発信しました。

これまで実施してきたイベントや取組内容等を検証し、より効果的な情報発信を実施することで本県への誘客促進を図ることが必要です。

- ④ 海外誘客の取組として、台湾については、現地旅行会社へのセールスを継続して実施し、台湾大手靴メーカーによる大規模ハイキングツアーが熊野古道松本峠等で催行（8/26～9/7 全11班600名超）され、地元関係者とともに支援を行いました。また、11月に開催された台北国際旅行博（ITF）に出展し、オープニングセレモニーでは日本代表の一人として知事が参列しテープカットを行

うとともに、メインステージで知事が現役海女やアイドルグループ「ALL OVER（オールオーバー）」らとともに「海女」をテーマに三重県の魅力をPRしました。タイやマレーシアについては、本県へのメディアの取材や旅行会社視察により現地での情報発信の機会が増加するとともに、知事によるトップセールス（9/9～9/12）を実施しました。また、平成25年のマレーシアに続き、タイ及び香港においてもそれぞれ有力旅行社に対して「三重県海外観光特使」を委嘱するなど、誘客促進を図っています。

今後も、重点国・地域を対象にその国の実情に応じた効果的なセールスを展開し、一層の海外誘客を促進する必要があります。

⑤外国人旅行者の利便性向上のため、無料公衆無線LAN（Free WiFi-MIE）をこれまで県内73ヶ所に整備を行ってきましたが、平成26年度も、熊野古道世界遺産登録10周年を迎えた東紀州地域において新たに5ヶ所の整備支援を行いました。今後も、「みえ旅案内所」を中心に整備支援を行っていきます。また、10月から外国人旅行者向けの消費税免税対象品目が拡大されたことから、消費税免税店の拡大を図るための説明会（津市、鳥羽市、伊勢市、熊野市）を開催するとともに、マレーシアやインドネシアなどのムスリム（イスラム教徒）への対応として、ハラール研修会を開催しました。引き続き、外国人旅行者の受入環境を整えていく必要があります。

⑥「海女」については、10月に志摩市で「海女サミット in 志摩2014」を開催するなど、海女文化の理解に向けた情報発信に取り組んでいます。また、「忍者」については、2020年のオリンピック、パラリンピックを見据え、世界に誇る観光資源である「忍者」に関連する全国の自治体や民間施設等が連携し「日本忍者協議会（仮称）設立準備会」が発足（3/8）しました。これらの世界に誇る観光資源を引き続き地域と連携しながら国内外に情報発信していく必要があります。

⑦津市美杉等で撮影され平成26年5月に全国で公開された映画「WOOD JOB！～神去なあなあ日常～」や、伊賀市等で撮影され平成27年2月に公開された映画「甥（おとこ）の一生」については、ロケ地マップを作成し上映館、書店に設置するとともに、ロケ地となった自治体や映画製作会社と連携しながら県内外でPRを行いました。

引き続き、県内各地のフィルムコミッションと連携し、ロケ支援に取り組むとともに、ロケツーリズムによる誘客促進を図ることが必要です。

⑧「日本一のバリアフリー観光県推進宣言」に基づき、伊勢志摩バリアフリーツアーセンターと連携し、パーソナルバリアフリー基準による調査を行った県内の観光施設（約130施設）やトイレ等のバリアフリー情報、体験・アクティビティ情報、交通情報等を取りまとめバリアフリー観光ガイドブックを作成しました。

今後、ガイドブックを活用し、誘客促進、観光案内窓口等のコンシェルジュ機能の向上とともに県内におけるバリアフリー観光の機運醸成を図っていく必要があります。

⑨みえICTを活用した産業活性化推進協議会の観光ワーキンググループにおいて、参画事業者が主体的に2つの実証事業を試みました。引き続き、こうした取組を支援していく必要があります。

⑩安全で安心できる観光地づくりを進めるため、鳥羽市において観光事業者、観光関係団体等を対象に防災セミナーを開催（113名参加）するなどの人材の育成、鳥羽市や紀北町における課題検討の場づくり、亀山市における避難訓練等を行いました。引き続き、市町、観光関係団体等とともに観光地における防災対策の取組を進めていく必要があります。

新しい豊かさ協創プロジェクト推進会議における主な意見

- ①目標値が高すぎる。現実的な数値にすべきである。また、閑散期の落ち込みを抑制し、平準化することや付加価値をつけて消費額を高めていくことが重要である。
- ②担い手不足が深刻である。老舗の店が廃業し、地域の特産物など売物がなくなってきている。維持するためには、外部の人材を入れるなど供給サイドの事情を踏まえたフォローが必要である。
- ③インバウンド誘客については、ブランディングが課題である。そのためには、ストーリーが重要である。一方で、外国人の関心は、日本人とは異なる場合が多く、また、国籍によっても関心が異なるので注意が必要である。
- ④外国人観光客は、カードでの購入が多いが、対応できていない店が多い。また、外貨の両替ができる場所が少ないため、せっかくのチャンスを失っている。また、Wi-Fiの利用環境を良くすることが重要であり、「たまり場」ができれば、情報発信のチャンスである。
- ⑤現在約130の観光施設、約100の宿泊施設などを紹介するバリアフリー観光ガイドブックを作成している。交通機関の情報を入れることで、点ではなく線で紹介できるようにする。ただし、モデルコースについては、ニーズを聞いたうえでアドバイスやコーディネートする必要があるのでガイドブックへの掲載はしない。

平成27年度の改善のポイントと取組方向

- ①国内誘客については、三重県観光キャンペーンの2年間の取組成果を踏まえ、集大成の年としてキャンペーン後も見据え事業を展開します。具体的には、みえ旅パスポートのデータを活用したステージ達成者への誘客促進に取り組むほか、「みえ旅案内所」へのWi-Fiの整備支援等による案内機能の充実、「みえ旅おもてなし施設」への協力店舗の増加等による来訪者へのおもてなしの見える化を図ります。また、キャンペーン後も念頭に置きながら、市町、市町観光協会等と連携した地域部会により、地域資源を掘り起し一体となって取り組むことで、周遊性・滞在性の向上やおもてなし向上による三重ファン・リピーターの確保とともに、県民の方々にも県内各地を訪れていただけるよう観光行動の促進を図ります。また、割引率を設定した「みえ旅プレミアム旅行券」の発行や、県内各地の体験メニュー等着地型観光商品のプロモーションによる販路拡大により観光消費額の増大を図ります。
- ②情報発信については、三重テラス等を活用しながら首都圏等において、忍者等共通テーマを有する他県との連携や、新たな三重の魅力を掘り起し、テーマ性、ターゲットを絞った情報発信、取組を実施します。
- ③観光の産業化を推進するため、観光消費の増加につながる新商品の開発、サービス産業の人材育成、農林水産物のブランド化などに取り組めます。
- ④海外誘客については、「みえ国際展開に関する基本方針」に基づき、台湾及びタイをはじめとする東南アジアを中心に、「海女」「忍者」「F1」など本県の持つクールジャパン資源を活用した重点的なプロモーションを実施するとともに、割引率を設定した宿泊券や商品券を活用し、誘客の促進を図ります。また、国のVJ（ビジットジャパン）事業による他県との連携や中部北陸9県による「昇龍道」の取組への参画など、広域による誘客を進めます。
- ⑤外国人旅行者向け口コミサイトにおいてキャンペーン等を実施するほか、引き続きフェイスブック等SNSを活用した情報発信や海外からのメディアファム受入を進めることにより、海外における本県の認知度を向上させ、本県に外国人旅行者を誘導します。
- ⑥外国人旅行者の利便性の向上を図るため、外国人旅行者向け消費税免税店の増加を促進するとともに

に、みえ旅案内所を中心に引き続き無料公衆無線LAN整備の支援を行っていきます。

- ⑦「海女」や「忍者」といった世界に誇る観光資源を活用し、関係自治体等と連携強化を図り事業を展開するとともに、ロケツーリズム、エコツーリズム等、関係機関と連携し強みを活かした情報発信に取り組むことで、本県への誘客促進を図ります。
- ⑧バリアフリー観光情報を掲載したガイドブックを活用し、首都圏等で情報発信することで、新たな観光需要の創出を図るとともに、地域の観光案内所と連携してバリアフリー観光のコンシェルジュ機能を強化します。また、NPOや市町、観光事業者、医療・福祉関係者、交通関係者などとのネットワーク構築や県内のバリアフリー観光の機運醸成を図りながら「日本一のバリアフリー観光推進県」の実現に向けて取り組みを進めます。
- ⑨みえICTを活用した産業活性化推進協議会の観光ワーキンググループにおいて、事業者の主体的な取組が進展するようワーキンググループの運営に努めます。
- ⑩観光地における防災対策については、市町、観光事業者と連携し、引き続き、観光防災に関する課題検討の場づくりや人材育成に取り組めます。
- ⑪三重県観光キャンペーン、インバウンドの取組成果や課題を踏まえ、県内での観光消費額の拡大、観光の産業化の実現等の観点から三重県観光振興基本計画（平成28年度～31年度）の策定に取り組めます。
- ⑫「伊勢志摩サミット」開催に向け、国際観光地としてのレベルアップに向けた取組を開始するとともに、サミット開催の好機を生かし、さらなる観光誘客につながる取組を検討します。

第1章 計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

「みえの観光振興に関する条例」第21条の規定に基づき、観光振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な計画として策定します。

2 計画の性格

本計画は、県が取り組む観光振興に関する施策等を明らかにした行政計画です。

また、本計画は、「みえ県民力ビジョン」における「協創」の考え方を踏まえ、市町、県民、観光事業者、観光関係団体等さまざまな主体の力を結集し、めざすべき三重県観光の将来の姿とその実現に向けた方向性を共有するための共通指針となるものです。

3 計画期間

概ね10年先を見据えつつ、平成24年度（2012年度）から平成27年度（2015年度）までの4年間とします。

第2章 三重県観光の現状と課題

1 観光を取り巻く環境

- 人口減少社会の本格化
- 東日本大震災による観光需要の減少
- 旅行に関する国民の意識等の変化
- 観光立国の推進

2 三重県観光の現状

- 入込客数等の推移
- 観光旅行者の動向
- 観光旅行者からの評価
- 三重県観光に対する期待
- 観光消費がもたらす経済効果

3 三重県観光振興プランの推進による主な実績と今後の課題

平成16年（2004年）11月に策定した「三重県観光振興プラン」に基づき、平成22年度（2010年度）までの6年余の計画期間を通じて、3つの観光戦略を展開しました。「観光レクリエーション入込客数」については目標を達成することができたものの、「観光客満足度」については未達成となり課題を残しました。

第3章 基本方針と目標

1 めざすべき姿

- 観光産業の持続的かつ健全な発展が図られていること
- 県、市町、県民、事業者、関係団体がそれぞれの役割を担いつつ連携が確保されていること
- 本県の観光資源が有する魅力を生かして県内外からの観光旅行が促進されていること
- 観光旅行者の満足度の向上が図られていること
- 本県の観光資源が有効に活用され、かつ、次の世代に継承が図られていること
- 地域の環境の保全と観光旅行を促進するための環境の整備との調和が図られていること

2 基本方針と施策体系

選営後も持続する三重県観光のさらなる発展に向けて、以下の基本方針のもと、さまざまな主体が力を合わせ、観光産業を地域に密着した産業として大きく育てる等、施策を展開します。

（基本方針）

- 国内外に対する観光宣伝活動の強化
- 魅力ある観光地の形成及び人材の育成
- 観光旅行を促進するための環境の整備

（施策体系（施策展開の柱））

- 式年運営の好機を生かした国内誘客戦略
- 三重県の特性を生かした海外誘客戦略
- 観光産業の高付加価値化戦略
- おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり
- 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり戦略

3 計画目標

項目	項目の説明	現状値	目標値 (平成27年度)
観光消費額	観光旅行者の県内において支出した観光消費額（交通費、宿泊費、飲食費、娯楽費等） 【単位：千円（百万円）】	4,449億円 (平成22年)	5,250億円
観光レクリエーション入込客数	県内の観光地を訪れた観光旅行者数、全道観光振興策に基づき実施した観光消費額100点満点に換算した数値 【単位：千名（百万名）】	3,562万人 (平成22年)	4,000万人
観光旅行者満足度評価	県内の観光地を訪れた観光旅行者の満足度を100点満点に換算した数値 【単位：千名（百万名）】	81.1点 (平成22年度)	100点
リピート意向率	本県を訪れたいと回答した観光旅行者の割合（7段階評価） 【単位：千名（百万名）】	75.7% (平成22年度)	100%
県内の延べ宿泊者数	県内の宿泊施設における延べ宿泊者数 【単位：千名（百万名）】	708万人 (平成22年)	800万人
県内の外国人延べ宿泊者数	県内の宿泊施設における延べ外国人宿泊者数 【単位：千名（百万名）】	106,000人 (平成22年)	150,000人
観光における海外自治体等との連携事業数（累計）	海外の自治体等と連携し、観光旅行者の誘致に取組んだ事業数 【単位：件（千件）】	0件 (平成22年度)	10件

三重県観光振興基本計画の概要 (2/2)

第4章 三重県観光の持続的な発展に向けた施策の展開

1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客

施策展開の方向性

式年遷宮により全国からの注目が集まる絶好の機会を生かして、三重県の観光PRに取り組むほか、首都圏をはじめとする全国各地からの誘客を戦略的に進め、国内からの誘客の拡大をめざします。

- (1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化
- (2) 周遊性・滞在性の向上につながる誘客のしくみづくり
- (3) 体験型観光を通じた教育旅行の誘致

2 三重県の特性を生かした海外誘客

施策展開の方向性

三重県が世界に誇る観光資源を活用した情報発信の強化、有望な市場に對するミッシェン等の派遣等により、海外における三重県の認知度を高めるとともに、他府県さらには海外自治体等との連携も図り、海外からの誘客の拡大をめざします。

- (1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開
- (2) 国及び他府県との広域連携の推進
- (3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実

3 観光産業の高付加価値化

施策展開の方向性

観光産業を地域に密着した産業として持続的に発展させていくため、観光産業と、ものづくりなど他分野の産業との組み合わせによる新たな価値の創出に取り組むとともに、観光事業者の経営革新に向けた取組の促進、経営基盤を強化するための環境整備等を進めるなど、観光産業の振興を図ります。

- (1) 観光産業の育成・振興
- (2) 観光産業の複合化による新たなツーリズムへの対応
- (3) 観光産業の高度化につながる県産品の魅力づくり

4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり

施策展開の方向性

地域における観光人材の育成、「おもてなし」の向上、郷土三重の良さや地域の魅力の再発見につながる取組の促進、さらには、世界遺産・熊野古道伊勢路の活用など地域が主体的に行う観光地づくりへの支援等を通じて、三重県の観光の魅力を高めます。

- (1) 観光地づくりを担う人材の育成（「おもてなし」の向上）
- (2) 県民の観光行動の促進
- (3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援
【地域別観光振興の方向（北勢・中南勢・伊勢志摩・伊賀・東紀州）】

5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり

施策展開の方向性

快適で美しい観光・交流空間づくり、観光旅行者の利便性の向上、観光旅行における安全の確保、観光振興に資する交通基盤の構築等、三重県への観光旅行を促進するための観光の基盤づくりを進めます。

- (1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり
- (2) 人にやさしい観光地づくり
- (3) 観光旅行の安全・安心の確保
- (4) 観光振興に資する交通基盤等の構築

第5章 推進体制の整備

1 計画の推進体制

県、市町、県民、観光事業者、観光関係団体がそれぞれの役割を担いながら、連携・協力して本計画を推進します。

2 観光統計の整備

観光統計の整備を、観光振興における重要なインフラ構築と位置づけ、市町、観光事業者及び観光関係団体との連携・協力を深め、旅行市場に関する情報・データの把握、観光旅行者の動向調査等、観光に関する情報の収集及び分析等を拡充させていきます。

3 計画の進行管理

本計画を晋実に推進していくため、各施策の進捗状況等を把握し、適切に進行管理を行います。また、進捗状況の結果については、年次報告書としてまとめ、公表します。

三重県観光振興基本計画の目標項目

(1) 観光消費額

$$\boxed{\text{三重県全体の観光消費額}} = \boxed{5 \text{ 地域ごとの観光消費額の合計}}$$

地域ごとの観光消費額

$$= \text{宿泊入込客観光消費単価} \times \text{宿泊入込客数} + \text{日帰入込客観光消費単価} \times \text{日帰入込客数}$$

* 宿泊入込客数と日帰入込客数は、地域ごとの観光入込客数に、三重県観光客実態調査による宿泊客と日帰り客の割合を乗じて算出。

* 観光消費額単価は、三重県観光客実態調査による、一人当たりの交通費、宿泊費、飲食費、買物費、入場料、その他の額の合計額。

【観光政策課調べ】

(2) 観光レクリエーション入込客数

1年間に観光レクリエーション等の目的で県内の観光地を訪れた人数について全国観光統計基準に基づき集計した推計値

【観光政策課「観光レクリエーション入込客数推計書」】

(3) 観光旅行者満足度評点

県内の観光地を訪れた観光旅行者の満足度を100点満点に換算した数値

【観光政策課「観光客実態調査」】

(4) リピート意向率

本県を再び訪れたいと回答した観光旅行者の割合（7段階評価の上位2段階）

【観光政策課「観光客実態調査」】

(5) 県内の延べ宿泊者数

県内の宿泊施設における延べ宿泊者数

【観光庁「宿泊旅行統計調査」】

(6) 県内の外国人延べ宿泊者数

県内の宿泊施設における延べ外国人宿泊者数

【観光庁「宿泊旅行統計調査」】

(7) 観光における海外自治体等との連携事業数（累計）

海外の自治体等と連携し、観光旅行者の誘致に取り組んだ事業数

【国際戦略課調べ】

三 岡 県 観 光 振 興 基 本 計 画 の 目 標 達 成 状 況

目 標 項 目	現 状 値 (平 成 2 2 年)	平 成 2 3 年 の 現 状 値	平 成 2 4 年 の 現 状 値	平 成 2 5 年 の 現 状 値	平 成 2 6 年 の 現 状 値 (目 標 値)	平 成 2 7 年 の 目 標 値
(1) 観 光 消 費 額	(目 標)	<100>	(5, 189億円) <116>	(5, 680億円) <127>	(5, 680億円) <127>	(5, 680億円) <127>
	(実 績)	4, 449億円	4, 535億円 <101>	5, 342億円 <119>	4, 657億円 <104>	
	一人当たり 観光消費額		12, 544円	13, 093円	(12, 178円)	(14, 200円)
(2) 観 光 レジ ョ ン 入 込 客 数	(目 標)		3, 650万人	4, 000万人	4, 000万人	4, 000万人
	(実 績)	3, 562万人	3, 787万人	4, 080万人	3, 824万人	
(3) 観 光 旅 行 者 満 足 度 評 点	(目 標)					100点
	(実 績)	81.1点	82.5点	82.7点	83.2点	
(4) リ ピ ー ト 意 向 率	(目 標)					100.0%
	(実 績)	75.7%	77.8%	84.5%	83.1%	
(5) 県 内 延 べ 宿 泊 者 数	(目 標)		720万人	800万人	800万人	800万人
	(実 績)	708万人	756万人	969万人	879万人	
(6) 県 内 の 外 国 人 延 べ 宿 泊 者 数	(目 標)		100, 000人	120, 000人	135, 000人	150, 000人
	(実 績)	106, 000人	90, 990人	130, 890人	178, 520人	
(7) 観 光 に お け る 海 外 自 治 体 と の 連 携 事 業 数 (累 計)	(目 標)	-	2件	5件	(達成済)	10件
	(実 績)	-	3件	10件	14件	

3 三重県の観光施策の体系 大項目5 - 中項目16 - 小項目78

大項目	中項目	小項目(見出し)
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化	① 三重県観光キャンペーンの展開
		② 首都圏営業拠点でのPR、三重県営業本部を通じた情報発信
		③ 大都市圏での情報発信、観光情報提供会
		④ (公社)三重県観光連盟との連携
		⑤ フィルムコミッションとの連携
		⑥ 県ゆかりの著名人やみえの国観光大使によるPR
	(2) 周遊性・滞在性の向上につながる誘客のしくみづくり	① 三重の観光営業拠点運営協議会を通じた地域企画型旅行商品の流通支援
		② 観光圏整備事業の促進
		③ 他府県等との広域連携
④ 各地域における広域連携		
(3) 体験型観光を通じた教育旅行の誘致	① 県外学校の教育旅行の誘致	
	② 県内学校の教育旅行による活用	
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	① トップセールス、ミッション派遣
		② 世界に誇る県内観光資源の発信
		③ ファムトリップ対応、海外への魅力発信
		④ 海外向け旅行モデルコースの設定及び提案
		⑤ 中国・河南省との観光・交流
		⑥ JNTO現地事務所及び駐日外国公館等との連携による情報発信等
	(2) 国及び他府県との広域連携の推進	① ビジット・ジャパン事業、国やJNTOとの連携
		② 広域団体との連携
		③ 中部及び関西の結節点を活用した広域観光ルートの開発
		④ 中部及び関西国際空港における外国人観光旅行者への情報提供
	(3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実	① 外国人向け観光情報発信
		② 多言語表記等による案内表示
		③ 三重県外国人観光客誘致促進協議会を核とした視察・取材の受け入れ
		④ 外客受入研修会、受入対応力向上
3 観光産業の高付加価値化	(1) 観光産業の育成・振興	① 観光分野の新事業創出や既存事業高度化等を行う中小企業への支援
		② 地域資源を活用したコミュニティビジネスによる経済活動への支援
		③ 観光に関する統計調査の実施
		④ 中小企業の資金調達に係る支援
	(2) 観光産業の複合化による新たなツーリズムへの対応	① グリーン・ツーリズムの推進
		② エコツーリズムの普及促進
		③ 産業観光の促進
		④ ヘルスツーリズムの促進
		⑤ 医療観光の促進
		⑥ スポーツツーリズムの促進
	(3) 観光産業の高度化につながる県産品の魅力づくり	① 三重県営業本部での三重ブランドの魅力PR
		② みえフードイノベーションを通じた商品開発及び県産品認知度向上
		③ みえ地物一番、地産地消情報の提供
		④ 「みえ地域コミュニティ応援ファンド」、「みえ農商工連携推進ファンド」
		⑤ 伝統産業や地場産業の活性化

大項目	中項目	小項目(見出し)
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	① 「おもてなし」の向上
		② 観光キーパーソンの育成
		③ おもてなしの心あふれる観光ボランティアガイドの育成
		④ 講演会等の開催を通じた観光人材の育成、男女共同参画
		⑤ 美し国おこし・三重
		⑥ 東紀州地域振興公社、熊野古道語り部の育成
		⑦ 宮川流域エコミュージアム、宮川流域案内人の育成
		⑧ 農林漁業体験等の指導者研修
	(2) 県民の観光行動の促進	① 観光パンフレットの掲出
		② 郷土教育の推進
		③ 歴史的・文化的資産の活用による人材育成・地域づくり
	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	① 観光旅行者の周遊性・滞在性の向上
		② 地域における観光の魅力づくりへの支援
		③ 世界遺産熊野古道の保存、活用に向けた関係機関との連携
		④ 海女や忍者等を活用した三重県観光モデルの構築
⑤ 「美し国おこし・三重」を通じた地域づくり活動への支援		
⑥ 環境に配慮したクリーンな観光地づくり		
⑦ 市町や地域の広域団体による観光振興計画策定 (地域別観光振興の方向)		
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	① 景観に配慮したまちづくりの促進
		② 街路整備や電線類の地中化
		③ 日本風景街道『伊勢熊野みち』推進協議会
		④ 潤いのある水辺空間の創出
		⑤ 自然公園や自然遊歩道等の整備及び維持管理
	(2) 人にやさしい観光地づくり	① ユニバーサルデザインに配慮した施設整備
		② バリアフリー化の促進
		③ 熊野古道を歩く観光旅行者の利便性向上
		④ 多言語表記等による案内表示【2(3)②再掲】
	(3) 観光旅行の安全・安心の確保	① 危機管理情報の収集及び伝達体制づくり
		② 避難訓練等への支援
		③ HACCP(ハサップ)、自主衛生管理システムの導入促進
		④ 食品表示の監視指導
		⑤ 県管理の道路・河川・海岸等施設の維持管理
		⑥ 飲食店及び旅館事業者等からの暴力団排除
	(4) 観光振興に資する交通基盤等の構築	① 道路ネットワークの形成推進
		② 交通網の整備促進や空港等の利用促進
		③ 熊野古道シャトルバス、二次交通の充実
		④ パーク&バスライドへの支援

4 平成 26 年度観光施策の取組状況

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光 P R・誘客のさらなる強化	1 (1) ① 三重県観光キャンペーンの展開	式年遷宮を三重県への誘客を図る絶好の機会と捉え、市町、県民、観光事業者、観光関係団体のほか、県ゆかりの企業等と連携して、観光キャンペーンを展開します。	<p>○ 官民が連携して「みえ旅パスポート」の発給促進、「みえ旅案内所」及び「みえ旅おもてなし施設」の充実を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みえ旅パスポート発給数 396,839 件 (3 月 29 日現在) ・みえ旅案内所の設置 68 施設 ⇒ 102 施設 ・みえ旅おもてなし施設の募集 640 施設 ⇒ 859 施設 <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 5 つの地域部会に県内全市町の参画を得て、県内各地の地域の魅力発見や情報発信、地域連携事業の実施など、地域と一体となった取組を進めました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ オフィシャルガイドブックやエリアパンフレットを半年ごとにテーマを更新して発行し、県内各地の旬の情報発信やキャンペーン企画の情報提供を行いました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ フェイスブック及びLINEを活用し、観光キャンペーン新着情報やみえ旅おもてなし施設の紹介など、三重の魅力ある情報発信を行いました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 首都圏等大都市圏においては、三重テラス、関西事務所、名古屋桜通りカフェと連携して、雑誌媒体を活用した女性、シニア等に狙いを絞った情報発信やメディア等を対象にした企画提案、情報発信を行うとともに、地方では、百貨店の物産展などでPRを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア掲載件数 73 件 (新聞 47 回、雑誌 19 回、TV7 回) <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 民間事業者等との連携では、75 社を超える企業等に協力いただき、商品開発、ロゴマークの活用、PR など、官民が一体となった三重県の認知度向上に取り組みました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 熊野古道世界遺産登録 10 周年に併せて、定額料金で高速道路が乗り放題となる「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」ドライブプランを、中日本高速道路株式会社と連携し企画実施しました。(実施期間：平成 26 年 7 月 24 日～11 月 30 日)</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
1 式年 遷宮の好 機を生か した国内 誘客	(1) 式年遷宮 の好機を 生かした 観光PR・ 誘客のさ らなる強 化	1(1)② 首都圏営 業拠点で のPR、三 重県営業 本部を通 じた情報 発信	現在、設置に向けた検討を進めている営業拠点での観光PR等、「三重県営業本部」による取組を通じて、国内における情報発信を強化します。	<p>○ 「三重テラス」における「熊野古道世界遺産登録 10 周年」、「遷宮おかげ年」の機会を捉えた効果的な企画を展開、日本橋地域のネットワークやイベントとの連携、三重の魅力を紹介するトークイベントの実施等による旬発力（旬な情報の発信力）のある三重の魅力発信・三重テラスへの集客活動を実施する（191 件）とともに、「三重テラス」への集客の他、来場者をコアな三重県ファンにしていく講座を、日本橋地域の企業とも連携して開催しました。（20 回）また、包括協定を締結している大手流通事業者や、応援企業、応援店舗の協力を得て実施する三重県フェアの運営にも参加しました。（4 回） 【雇用経済部三重県営業本部担当課】</p> <p>○ 首都圏営業拠点「三重テラス」を核とした営業展開については、目的・ターゲットを明確にしつつ、①「集客力の高いエリアでの情報発信」、②「コアな三重ファンの拡大、応援店舗・応援企業」のネットワーク拡大、③「首都圏全体での面的な情報発信」、④「県内生産者と首都圏流通事業者との商談会、県内中小企業と首都圏企業とのマッチング等による販路拡大」、の 4 つの展開により、市町や関係団体とも連携しながら、県内への誘客や県産品の販路拡大に向けた営業活動を行い、三重の魅力の総合的、効果的な情報発信の取組を進めました。（営業本部活動回数（累計）429 回）（三重の応援団など三重県を応援する三重県ファン数（累計）2,372 人） 【雇用経済部三重県営業本部担当課】</p> <p>○ 関西圏営業戦略に基づき、①効果的な情報発信②観光誘客③「食」の販路拡大支援を市町や関係団体と連携しながら実施しました。 「効果的な情報発信」では、関西圏のマスコミへの情報発信力を高めるため「“プレスリリースのコツ”セミナー」を、「テレビ編」（20 名参加）、「新聞編」（15 名参加）、「雑誌編」（16 名参加）の 3 回実施しました。その他、市町等と連携して在阪マスコミに三重の旬の情報を発信しました。 （プレスツアー6 回、マスコミキャラバン 12 回、情報発信実績 123 件） 観光誘客としては、熊野古道世界遺産登録 10 周年や「食」「女子旅」などテーマを絞った効果的なイベント等へ出展しました。 （観光・物産展等への出展 91 回） 「食」の販路拡大支援については、「食」をテーマにした講座やイベントを実施するなど、三重県食材を取り扱う協力店舗と連携した取り組みを進めました。 （三重の食セミナー～すばらしき伊勢うどんの世界～（27 名参加）、幻の牡蠣“渡利かき”を楽しむ会（24 名参加）、他） 【関西事務所】</p> <p>○ 首都圏営業拠点「三重テラス」において、熊野古道をテーマとした文化講座を開催しました。（2 回 139 人） 【環境生活部文化振興課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化	1(1)③ 大都市圏での情報発信、観光情報提供会	首都圏、関西圏、中京圏等の大都市圏において、メディアを活用した情報発信に取り組むほか、旅行会社等関係者に対する説明会を通じた働きかけ等により、三重県への誘客を促進します。	<p>○ 平成 26 年は、伊勢神宮の「おかげ年」や、熊野古道世界遺産等露光 10 周年など、三重県が全国から注目を集める絶好の機会であったことから、この好機を生かして全国に向けて三重県の魅力を発信しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 出版社や新聞社、テレビ局、WEB を対象にメディアキャラバン（訪問数：23 社）、プレスツアー（参加者数：10 媒体）を実施し、メディアとの関係構築を図りました。その結果、10 媒体に三重県の観光情報が掲載されました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 首都圏においてメディア、旅行会社等を対象とした三重県観光交流会を開催し（平成 27 年 1 月 28 日）、桑名の七里の渡し跡と関宿の東の追分の鳥居の建て替えや、斎宮跡の建物復元、F-1 への Honda の復帰、JR 名松線の全線復旧など、本年注目のトピックスに共通する「未来へ受け継ぎたい三重の変わらぬ姿」をメインテーマに三重県にゆかりのある著名人に三重の魅力を伝えてもらうトークセッションを開催するなど、三重県の魅力を発信するとともに、メディア関係者等と県内各地の市町、観光協会、観光事業者等が直接交流し、メディアとの関係構築を図りました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 関西圏、中京圏においては、三重県に対する認知度が高く、直接、誘客に繋がりやすい地域であることから、メディア等を対象とした観光情報提供会を各 2 回、名古屋桜通りカフェにてメディアミーティングを 1 回開催し、最新の話題や旬の魅力等を積極的に発信し、交流することで、メディア等との関係を深めました。 【観光情報提供会】 関西圏：平成 26 年 7 月 1 日、平成 27 年 3 月 19 日 中京圏：平成 26 年 6 月 30 日、平成 27 年 3 月 25 日 【メディアミーティング】 桜通りカフェ：平成 26 年 6 月 18 日 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(1) 式年遷宮の好機を生かした観光PR・誘客のさらなる強化	1(1)④ (公社)三重県観光連盟との連携	(公社)三重県観光連盟等と連携して、三重県への来訪の動機づけを行う観光情報の発信に取り組めます。	<p>○ 三重県観光キャンペーンの情報発信において、(公社)三重県観光連盟の事業と連携し、観光関係事業者等との官民協働による情報発信力の強化に努めました。具体的には、ホームページ「かんこうみえ」のサイト内に、観光キャンペーンのホームページを設け、三重県内の観光情報と併せた発信を行うとともに、季刊紙「観光三重」など、観光連盟が持つツールを活用した県内の魅力発信に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 情報発信ツールとして活用が広がっている SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を活用し、フェイスブック及びLINE での情報発信に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ (公社)三重県観光連盟のフリーダイヤルや窓口等への問い合わせに対し、三重県の観光案内を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮 の好機を 生かした 国内誘客	(1) 式年遷宮 の好機を 生かした 観光 P R・誘客の さらなる 強化	1 (1) ⑤ フィルム コミッシ ョンとの 連携	県内のフィルム コミッションと の連携を図りな がら、三重県を舞 台とした映画、テ レビ番組等とタ イアップした観 光情報の発信を 行います。	<p>○ 平成 25 年 6～7 月にかけて三重県内を中心にロケが行われた 映画「WOODJOB! 神去なあなあ日常」(平成 26 年 5 月公開) のロケ地周辺地域の観光情報を紹介するロケ地マップを 30,000 部作成しました。三重テラスでの『WOODJOB! のロケ地は三重なんです! 展』の開催 (H26. 5. 9～17) など映画とロケ地の情報発信を行いました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 伊賀市や南伊勢町、津市と三重県県内を中心にロケが行われた映画「甥の一生」(平成 27 年 2 月公開) を PR するためロケ地と周辺観光地を紹介するロケ地マップを 25,000 部作成しました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
1 式年遷宮 の好機を 生かした 国内誘客	(1) 式年遷宮 の好機を 生かした 観光 P R・誘客の さらなる 強化	1 (1) ⑥ 県ゆかり の著名人 やみえの 国観光大 使による PR	三重県ゆかりの 著名人等の協力 を得て、三重県の 観光魅力の PR に取り組みます。	<p>○ 知名度と情報発信力が高い 2 名を新たにみえの国観光大使に委嘱しました (H27. 3. 31 現在、計 34 名)。就任式では、新大使から三重県観光キャンペーンをはじめとする三重の観光について、メディアに対して情報発信いただきました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 観光審議会において貴重な意見をいただくとともに、三重県観光キャンペーンや観光情報提供会をはじめとするイベントへの出席、三重県観光キャンペーンオフィシャルガイドブックへの寄稿などを通して、三重の魅力を強く PR していただきました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 経済界や芸能界などみえの国観光大使の各活動分野において、三重の観光 PR をしていただくため、各大使に、名刺をはじめ、観光入込客数など観光の現状がわかる資料、三重県観光キャンペーンオフィシャルガイドブック、観光イベント情報誌、特産品等、三重の観光に関する情報等を送付しました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮 の好機を 生かした 国内誘客	(2) 周遊性・滞 在性の向 上につな がる誘客 のしくみ づくり	1(2)① 三重の観 光営業拠 点運営協 議会を通 じた地域 企画型旅 行商品の 流通支援	市町等が参画する「三重の観光営業拠点運営協議会」を通じて、地域が主体となって企画した旅行商品の流通を支援することにより、県内での周遊性・滞在性を高めます。	<p>○ 中京圏のマスメディアと会員市町担当者が参加し、桜通りカフェを活用したメディアとのタイアップ企画の実施等、市町の観光情報を効果的に発信するためのメディアミーティングを実施しました。 (会員 15 団体 松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、尾鷲市、南伊勢町、熊野市、四日市市、桑名市、紀北町、伊賀市、いなべ市、鈴鹿市、三重県観光連盟、三重県) 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 本事業の成果である地域企画型旅行商品等の取組を、平成 25 年 4 月から実施している三重県観光キャンペーンと連動させ、三重県への誘客促進に繋げるよう、県内各地域の魅力として発信しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ クラブツーリズム関西、広交観光「オレンジツアー」、阪急交通社広島でのプラン造成を行い、販売しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 地域の観光体験プランの販売を促進するため、日本最大級のレジャー予約サービス「asoview! (あそびゅー!）」の活用に向け、体験プランのとりまとめ等の最終調整を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
1 式年遷宮 の好機を 生かした 国内誘客	(2) 周遊性・滞 在性の向 上につな がる誘客 のしくみ づくり	1(2)② 観光圏整 備事業の 促進	観光地が連携して2泊3日以上 の滞在が可能な 観光圏の形成を めざした伊勢志 摩及び東紀州の 両地域における 観光圏整備事業 を促進します。	<p>○ 観光圏整備法に基づく基本方針の改正を受けた新観光圏へ移行しなかったものの、伊勢志摩地域において策定された新「伊勢志摩観光振興プラン」(平成 26 年 3 月)の実現を支援することで、観光圏整備事業を通じて伊勢志摩地域が培ってきたニューツーリズムの流れを発展させられるよう、(公社)伊勢志摩観光コンベンション機構と連携し、取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 東紀州地域観光圏整備計画に基づき進行管理を行う東紀州地域振興公社に対し支援を行いました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮 の好機を 生かした 国内誘客	(2) 周遊性・滞 在性の向 上につな がる誘客 のしくみ づくり	1(2)③ 他府県等 との広域 連携	「吉野・高野・熊 野の国」をテーマ とする各種イベ ントの開催、「中 部広域観光推進 協議会」による広 域観光ルートの 設定をはじめ、他 府県等との広域 連携の取組を進 めます。	<p>○ 奈良県や島根県等とは、古事記・日本書紀、遷宮を共通テーマに、首都圏での連携講座（4回）やオープンカレッジ（1回）、記念シンポジウム及びメディア・エージェント向け懇談会での観光PR（1回）、関西圏でのシンポジウム（1回）、講演会での観光PR（1回）を行いました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 日本観光振興協会関西支部における関西ブロック広域観光振興事業を通じ、事業の推進協議会を構成する団体と連携して情報発信等に取り組みました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 中部広域観光推進協議会が行う「昇龍道」ハイレベルミッションへの参加、「ツーリズムEXPOジャパン2014」への出展等を通じて、中部各県との連携を深めるとともに、広域的な観光情報の発信に取り組みました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 奈良県、島根県等5県が連携し、「古代歴史文化賞」の発表会・賞贈呈式の開催、記念シンポジウム（日本教育会館 1/31 702人）を開催しました。</p> <p style="text-align: right;">【環境生活部文化振興課】</p> <p>○ 福島県、奈良県、島根県の日本橋周辺のアンテナショップを活用し、連携イベント等を開催しました。また、岐阜県の御嶽山噴火及び長野県神城断層地震を受けて、岐阜県・長野県と合同で観光・物産展を開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福島県・三重県連携「福島と三重のサクラ競演」パネル展（H26. 4. 12～4. 13） ・ 長野県・岐阜県・三重県連携 御嶽山噴火・長野県神城断層地震復興応援 観光・物産展（H26. 12. 24） ・ 御嶽山噴火・長野県神城断層地震復興応援企画第2弾 長野県産ワインと三重県産海産物のマリアージュ講座（H27. 3. 9） ・ 四館連携スタンプラリー「開運ウォークラリー」（H26. 10. 25～10. 26） ・ 四館連携マルシェ「新浮世小路 旬市」（H26. 10. 25～10. 26） ・ 四館連携プレゼントキャンペーン（H27. 2. 21～3. 15） <p style="text-align: right;">【雇用経済部三重県営業本部担当課】</p> <p>○ 三重県、奈良県、和歌山県の三県からなる「吉野・高野・熊野の国」事業実行委員会において、連携しながら事業を行い、世界遺産登録10周年を迎えた世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の知名度向上、集客増加を図りました。</p> <p style="text-align: right;">【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮 の好機を 生かした 国内誘客	(2) 周遊性・滞 在性の向 上につな がる誘客 のしくみ づくり	1 (2)④ 各地域に おける広 域連携	「北伊勢広域観 光推進協議会」、 「(社)伊勢志摩 観光コンベンシ ョン機構」、「東 紀州地域振興公 社」等、各地域に おける広域連携 の取組を支援し ます。	<p>○ 北伊勢広域観光推進協議会について、三重県観光キャンペーン推進協議会北勢地域部会の取組の一環として参画するとともに、花と食の回廊スタンプラリーに対し連携して情報発信等に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 伊勢志摩地域の中核的観光推進組織である(公社)伊勢志摩観光コンベンション機構に参画し、観光情報の発信や誘客促進などを実施しました。 1) テレビ・ラジオ番組やパンフレット、県内外で開催されるイベント等における情報発信(観光PR) 2) シャトルバスの運行支援や着地型旅行企画商品の造成等の誘客促進 3) フィルムコミッション活動を通じた、伊勢志摩の魅力発信 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 伊勢神宮の「第 62 回神宮式年遷宮」を迎えて注目を集めた伊勢志摩地域において、伊勢、鳥羽、志摩など域内を周遊してもらうために、伊勢志摩地域 3 市 3 町と連携し、さまざまな行事やイベントを開催するなど、伊勢志摩地域の誘客促進を図るエリアキャンペーン「伊勢志摩キャンペーン」を実施しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 東紀州地域の魅力を発信するために、市町等多様な主体と連携し地域の資源や魅力を生かした事業を展開したり、商談会等への出展支援や通販事業者へのセールスにより、消費者ニーズの把握や販路拡大につなげるなど観光振興、産業振興等の面で地域コーディネーターとしての役割を担う、東紀州地域振興公社に対して支援しました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】</p> <p>《4 (3) ①再掲》</p> <p>○ 三重県南部地域活性化基金を活用し、玉城町、度会町、南伊勢町が連携して行う取組に対して支援しました。 ・サニーロード沿線マップをリニューアルし、沿道の店舗で使えるクーポン掲載とスタンプラリーを行うとともに、高速SA(土山、御在所、安濃)等で配布しました。 ・3 町合同の産直市「サニー市」を平成 26 年 11 月から計 3 回開催するとともに、ノベルティグッズ(3 町ゆるキャラ缶バッジ)を作成し、PR イベント等で配布しました。 ・情報発信拠点「城(ぐすく)」(玉城町)にサニーロード周知のための案内看板を設置しました。 【地域連携部南部地域活性化局南部地域活性化推進課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(3) 体験型観光を通じた教育旅行の誘致	1(3)① 県外学校の教育旅行の誘致	「伊勢志摩学生団体誘致委員会」と連携し、首都圏の中学校を訪問するとともに、体験学習発表会を開催する等、首都圏からの修学旅行の誘致活動を進めます。また、阪神なんば線や新名神高速道路の開通に伴い、三重県へのアクセスが向上した関西圏西部の小学校を訪問し、同地域からの誘致にも取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伊勢志摩学生団体誘致委員会、三重県東京事務所および大阪事務所との協働により、首都圏（東京都、川崎市、藤沢市）の中学校 157 校および関西圏（神戸市、西宮市、尼崎市）の小学校 249 校を訪問し、修学旅行の誘致活動を展開しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】 ○ 神戸市において、学校関係者、旅行会社等を対象とした「伊勢志摩修学旅行体験学習発表会」を開催しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】
1 式年遷宮の好機を生かした国内誘客	(3) 体験型観光を通じた教育旅行の誘致	1(3)② 県内学校の教育旅行による活用	県内及び近隣府県の小中学校担当者等を対象として、海や山での体験、工場見学といったさまざまな体験メニューを掲載した「三重県体験学習ガイドブック」等を活用して、教育旅行の目的地としての三重県をPRします。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内の小中学校 566 校及び県内市町教育委員会に対し、「三重県体験学習ガイドブック」を配布することにより、三重の教育旅行を紹介しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】 ○ 県内小中学校教務担当者会議において、資料配布を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	2(1)① トップセールス、ミッション派遣	トップセールスをはじめ、現地関係者・キーパーソンに直接働きかけるミッション派遣等を、海外の有望市場を対象として実施することにより、三重県の認知度を向上させます。	○ 平成 26 年 8 月に知事を団長としたミッション団をマレーシアへ派遣し、観光を含め、産業、物産など総合的に三重県を PR しました。また、同様に 11 月にはミッション団を台湾へ派遣し、知事が台湾観光局長、台湾観光協会会長、高雄市長らと会談しトップレベルでの関係をさらに強化しました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	2(1)② 世界に誇る県内観光資源の発信	伊勢神宮、真珠、忍者、松阪牛など、三重県が世界に誇る観光資源を活用し、海外に対して三重県を強く印象づけるブランドイメージを形成するとともに、強力に発信していきます。	○ 世界に誇れる優れた観光資源「忍者 (NINJA)」をテーマに、他地域のモデルとなる新しい取組を構築することで、地域の観光産業を活性化し、三重県観光の持続的な発展につなげていくことを目的として、平成 24 年 8 月 30 日に「伊賀流忍者観光推進協議会」を設立しました。伊賀流忍者をキーにホームページやロゴマークの活用や、PR 動画の制作、PR イベントの開催など、伊賀・名張両地域を一体的に発信していくための基盤づくりに取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】 ○ 古くから女性が素潜りにより自然と共生しながら漁をする海女漁業並びに海女に関する資源を貴重な地域資源と位置づけ、ユネスコ無形文化遺産登録を目指し、海女漁業の継続、海女文化の振興及び海女文化による観光振興を図ることを目的とする「海女振興協議会」を通じ、海女サミット in 志摩 2014、海女サポート&ガイド養成、地域人づくり事業を活用した人材育成、海女映像記録集(写真)の作成など、海女の情報発信、文化振興に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	2(1)③ ファムトリップ対応、海外への魅力発信	海外のメディア、旅行関係者等による県内視察・取材の招聘・受入に積極的に取り組むほか、当該メディアやインターネット等を活用して、三重県魅力を直接、海外に伝えます。	○ 海外メディアや旅行関係者等による県内視察については、17 件(前年度 31 件)の受入れを行いました。また、インターネット等を活用した情報発信については、三重県観光の外国語ホームページで 615,452 件(前年度 481,731 件)のアクセスがあったほか、フェイスブック、ツイッター等で 2,771 件(前年度 2,509 件)の発信を行い、本県の魅力発信に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	2(1)④ 海外向け旅行モデルコースの設定及び提案	国・地域別のマーケティングを通じて、県内各地の温泉と伊勢海老等のグルメを組み合わせたコース、アウトレットモール、おかげ横丁等でのショッピングや食歩きを中心としたコース、熊野古道伊勢路をはじめ歴史的・文化的景観、建造物等を巡るコースなど、三重県らしさを前面に押し出した具体的なモデルコースを設定し、海外の旅行会社に対して提案する等の働きかけを行います。	○ ミッション派遣や現地でのセールスコール（旅行会社訪問）などで、三重県の魅力ある具体的なモデルコースを提案したほか、旅行会社の県内視察を通じて、観光資源を体験していただきました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	2(1)⑤ 中国・河南省との観光・交流	中国河南省との「観光・交流の推進に関する協定書(2011年8月)」に基づき、観光・交流の拡大を推進します。	○ 平成 26 年度は、両国間の情勢は好転しつつありましたが、中国河南省との観光関係の事業を実施するには至りませんでした。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(1) 海外の市場動向に応じたプロモーション及び誘客活動の展開	2(1)⑥ J N T O 現地事務所及び駐日外国公館等との連携による情報発信等	世界各地に展開している日本政府観光局(J N T O)の現地事務所、駐日外国公館等との協力関係を深め、誘客につなげるための情報交換、海外に向けた情報発信に取り組みます。	○ 世界各国に事務所を持つ J N T O と協力して、現地での情報発信及びプロモーションの際に有効な情報提供を受けて事業を実施しました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(2) 国及び他府県との広域連携の推進	2(2)① ピジット・ジャパン事業、国やJNTOとの連携	国のピジット・ジャパン事業の活用等、国及び日本政府観光局(JNTO)と連携した各種プロモーションに取り組みます。	<p>○ 「国際展開基本方針」に基づきターゲット市場を選定してプロモーションに取り組むとともに、JNTO等が実施するイベントやメディア招請の機会を積極的に活用し、三重県の観光資源の露出拡大及び誘客促進を図りました。</p> <p>(台湾) 近畿日本鉄道株式会社、中部国際空港利用促進協議会、新関西国際空港株式会社等民間関係者と連携し、旅行博出展等による宣伝活動などにより認知度向上をはかるとともに、台北・台中・高雄における観光説明会・商談会・セールスコールやファミトリップ、メディア・旅行会社招請により、「近鉄レールバス」の利用促進を通じた三重県への誘客促進に取り組みました。</p> <p>(香港) 和歌山県等と連携し、レンタカーによる訪日旅行の実績の多い香港市場をターゲットに、新関西国際空港と中部国際空港を結ぶ紀伊半島周遊エリアをドライブ・ツーリズム・コースとして定着させることを目指し、メディア招請や旅行会社へのセールスコールを行いました。</p> <p>(フランス) 三重県固有の歴史・文化資源の魅力を確認すべく、旅行会社へのセールスコールや旅行会社招請を実施しました。</p> <p>(東南アジア) 和歌山県等と連携し、タイ、マレーシアなど東南アジアからの誘客に向けた取り組みを行いました。</p> <p>(韓国) 中部国際空港等と連携し、メディア招請等、旅行商品造成のための事業を行いました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p>
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(2) 国及び他府県との広域連携の推進	2(2)② 広域団体との連携	「中部広域観光推進協議会」、「東海地区外国人観光客誘致促進協議会」、「関西広域連合」等の広域団体との連携により、ミッション派遣や海外観光展をはじめとするプロモーションの実施等、スケールメリットを生かした誘客活動を展開します。	<p>○ 各広域団体が主催する商談会や招請事業に県内観光事業者とともに参加し、三重県の観光をPRしました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p> <p>○ 海外におけるプロモーション事業においても、一体となって観光情報を発信することにより誘客促進を実施しました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(2) 国及び他府県との広域連携の推進	2(2)③ 中部及び関西の結節点を活用した広域観光ルートの開発	中部及び関西の両圏域の結節点に位置する地理的特性等を生かした広域観光ルートを、他府県等と連携して開発します。	<p>《2(2)①一部再掲》</p> <p>○「国際展開基本方針」に基づきターゲット市場を選定してプロモーションに取り組むとともに、JNTO等が実施するイベントやメディア招請の機会を積極的に活用し、三重県の観光資源の露出拡大及び誘客促進を図りました。</p> <p>(香港)</p> <p>和歌山県等と連携し、レンタカーによる訪日旅行の実績の多い香港市場をターゲットに、新関西国際空港と中部国際空港を結ぶ紀伊半島周遊エリアをドライブ・ツーリズム・コースとして定着させることを目指し、メディア招請や旅行会社へのセールスコールを行いました。</p> <p>(東南アジア)</p> <p>和歌山県等と連携し、タイ、ベトナムなど東南アジアからの誘客に向けた取り組みを行いました。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p>
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(2) 国及び他府県との広域連携の推進	2(2)④ 中部及び関西国際空港における外国人観光旅行者への情報提供	中部及び関西国際空港において、関係自治体、団体等と共同して観光案内所を運営することにより、案内業務のほか外国語パンフレットの掲出等、外国人観光旅行者に対する情報提供を行います。	<p>○ 中部国際空港および関西国際空港それぞれの観光案内所に外国語パンフレットを提供することにより三重県の観光をPRし、両空港から三重県への誘客を図りました。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実	2(3)① 外国人向け観光情報発信	外国語ホームページ、外国語パンフレットの充実を図ります。特に、ホームページにおいては、外国人観光旅行者が県内で移動・滞在する際に、役立つ情報の提供(交通アクセスや観光案内所等)に取り組みます。	○ 外国語のホームページとフェイスブックなどのSNSとの連携とともに、SNSでの積極的な情報発信を行い(597件)、実際に旅行する外国人旅行者にとって利便性が高いものにしました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実	2(3)② 多言語表記等による案内表示	県内の主要な観光地、交通結節点での多言語表記等、案内表示の設置を促進します。	○ 観光施設等が外国語の案内表示を作成する際の翻訳サポートを行いました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】 ○ 外国人観光客が訪れるみえ旅案内所等に指さし案内や、無料公衆無線LAN(Free WiFi-MIE)の整備(平成26年度までに78ヵ所整備)を行いました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】 ○ 県管理道路の案内標識については、標識令等に基づく英語表示の併用など、分かりやすい表記に取り組みました。 【県土整備部道路管理課】
2 三重県の特性を生かした海外誘客	(3) 外国人観光旅行者の受入体制の整備充実	2(3)③ 三重県外国人観光客誘致促進協議会を核とした視察・取材の受け入れ	県、市町、観光事業者等が参画する「三重県外国人観光客誘致促進協議会」を核として、海外のメディア、旅行関係者等による県内視察・取材の受け入れに取り組みます。	○ 三重県外国人観光客誘致促進協議会を核として、タイやマレーシア、インドネシア、香港、フランスの旅行会社の県内視察や、タイのメディアの取材を受け入れました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
2 三重県の 特性を生 かした海 外誘客	(3) 外国人観 光旅行者 の受入体 制の整備 充実	2(3)④ 外客受入 研修会、受 入対応力 向上	外客受入研修会 の開催等を通じ て、外国人観光旅 行者の受入対応 力の向上を図り ます。	<p>○ハラル（イスラム法において合法的なもの）対応に関する研修会を開催するなど、外国人観光客が安心して三重県を訪問できる環境の整備を図りました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p> <p>○ 「おもてなし」の向上と県内各市町での案内機能の充実を行っていただくために、三重県観光キャンペーンに係わるみえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、関係団体等を対象にセミナー及び現地研修を実施しました。接遇と情報発信をテーマに研修会を津市で2回開催しました。また、現地研修を含む情報交換会を、本年度オープンした三重県総合博物館M i e M uで開催しました。みえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、観光関係団体、地域づくり団体や県・市町等の職員約150名の参加をいただきました。</p> <p>第1回：平成26年6月19日（木） プラザ洞津 「声と言葉で心に響く♪おもてなし」</p> <p>第2回：平成27年3月6日（金） アスト津 「明日からできる！情報発信というおもてなし」</p> <p>【現地見学会】 第1回：平成26年12月10日（水） 三重県総合博物館M i e M u 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(1) 観光産業 の育成・振 興	3(1)① 観光分野 の新事業 創出や既 存事業高 度化等を 行う中小 企業への 支援	観光分野における新事業の創出や既存事業の高度化、観光分野への新たな進出等に取り組む中小企業に対し、関係団体と連携した総合的な支援を行います。	<p>○ 「みえ地域コミュニティ応援ファンド」については、44 件を採択し、「みえ農商工連携推進ファンド」については 12 件を採択し、その取組を支援しました。 【雇用経済部サービス産業振興課、地域資源活用課】</p> <p>○ 県内の食関連産業の事業者を対象に、「おもてなし経営」実践へ向けた中堅・リーダー育成塾を平成 27 年 1 月から 3 月まで全 4 回(36 名参加) 開催しました。 【雇用経済部サービス産業振興課】</p> <p>○ みえ ICT を活用した産業活性化推進協議会の観光ワーキンググループ (WG) で、実証事業プランの報告、観光の現状、オープンデータについての勉強会を実施しました。このほか、WG に参画する事業者による実証事業を展開する上で、観光事業者や市との調整等支援しましたが、採択や事業化には至りませんでした。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p>
3 観光産業 の高付加 価値化	(1) 観光産業 の育成・振 興	3(1)② 地域資源 を活用し たコミュ ニティビ ジネスに よる経済 活動への 支援	観光やまちづくり等の地域課題の解決を図るため、地域の資源を活用したコミュニティビジネスによる持続可能な経済活動の取組を支援します。	<p>《4(1)⑤再掲》</p> <p>○ 地域をよりよくしようとする活動を自発的に行うパートナーグループの活動を支援するため、専門家派遣を、26 件、延べ 71 回実施しました。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進 P T】</p> <p>《4(1)⑤再掲》</p> <p>○ パートナーグループによる地域づくりを進めるため、必要な初期投資にかかる経費を対象に、パートナーグループに対して 4 件、市町が参画する実行委員会に対して 1 件(名張市・伊賀市・津市合同) 財政的支援を実施しました。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進 P T】</p> <p>《3(1)①再掲》</p> <p>○ 「みえ地域コミュニティ応援ファンド」については、44 件を採択し、「みえ農商工連携推進ファンド」については 12 件を採択し、その取組を支援しました。 【雇用経済部サービス産業振興課、地域資源活用課】</p>
3 観光産業 の高付加 価値化	(1) 観光産業 の育成・振 興	3(1)③ 観光に関 する統計 調査の実 施	市町、観光事業者、観光関係団体等、関係者の協力を得ながら、観光に関する統計調査や動向調査を継続的に実施します。また、それらの結果については、関係者との共有を進め、地域における観光の魅力づくり・人づくりのほか、観光事業者による「おもてなし」の向上等サービス改善に向けた活用へとつなげていきます。	<p>○ 観光レクリエーション入込客数調査では、県内 29 市町から報告のあった各施設の入込客数をまとめ、「平成 25 年観光レクリエーション入込客数推計書」を発行しました。また、ゴールデンウィーク・夏休み・お正月には、観光客の動向を把握するため、県内の主要施設の入込客数調査を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 「観光客実態調査」では、四半期ごとに県内の 15 施設で行った調査の結果を、三重県全体・地域別に集計し、報告書にまとめました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(1) 観光産業 の育成・振 興	3(1)④ 中小企業 の資金調 達に係る 支援	経済環境等の変 化に応じて、観光 事業者を含む中 小企業の資金調 達の円滑化の支 援を行うことに より、経営基盤の 強化を図ります。	○ 三重県中小企業融資制度において、小規模事業資金により観光事業者を含めた小規模事業者を対象とする融資制度を実施していますが、平成 25 年度から「みえ産業振興戦略関連資金」を新設し、県の観光人材育成カリキュラムを受講し修了証を受けた旅館・ホテル業を営む中小企業が行う施設のバリアフリー化を対象にした設備資金を新たに融資対象としています。 【雇用経済部サービス産業振興課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	3(2)① グリー ン・ツー リズムの推 進	三重県の農山漁村の魅力を大都市圏等に向け広く情報発信するとともに、自然、文化、農林水産物等、農山漁村地域の豊かな地域資源を生かしたグリーン・ツーリズムの推進により、都市と農山漁村の交流・共生を促進します。	<p>○ 農山漁村の豊かな地域資源を生かした「いなかビジネス」の創出と質的向上に向け、交流アドバイザー（講師）を 10 回派遣しました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>○ 農山漁村の資源と都市のニーズを結んで農村起業を促進するコーディネーターを養成する講座（6 回連続）を開催しました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>○ いなかビジネスの取組は 158 件となり、組織間のネットワーク化を図るための第 3 回三重県グリーン・ツーリズムネットワーク大会（平成 26 年 9 月 11～12 日）、情報交換や研修の場として第 1 回いなかビジネス実践者大会（平成 26 年 10 月 21 日）を開催しました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>○ 県内外のイベント等で、冊子「いなか旅のススメ 2014」の配布による PR や HP を通じた三重の農山漁村の魅力を情報発信し、農山漁村（里）を応援してくれる三重の里ファン倶楽部会員数は 7,057 名（平成 27 年 3 月末現在）となりました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>○ 都市住民等にグリーン・ツーリズムや農山漁村の魅力を情報発信するため、「いなか旅のススメ PR リーフレット」を作成しました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>○ 子ども・学生のグループを受け入れようとする 7 地域へ、モデル的に体制整備に要する経費を支援し、県内での受入体制の整備を図りました。県内の子ども・学生のグループの受入組織は、11 地域に増えました。 【地域連携部地域支援課】</p> <p>○ 受入側担当者による意見交換会（情報交換会）を開催し、各受入地域協議会相互の取組レベルの向上を図りました。また、子どもたちへ安全安心の体験活動を提供するために、6 月に受入地域協議会等を対象に安全管理講習会を開催し、25 名の参加がありました。 【地域連携部地域支援課】</p> <p>○ 三重県内の受入地域情報を集約し、体験型教育旅行客誘致の活動としてパンフレットの作成し、県内及び近隣府県の学校等へ送付を行うとともに、受入地域協議会のインストラクターとともに、小・中学校等の学校長会において PR 活動を行いました。 【地域連携部地域支援課】</p> <p>○ 子ども・学生のグループを受け入れた際に、農林漁業体験などを指導する体験指導者の養成講座を、3 泊 4 日の日程で南伊勢町を会場に開催し、23 名の参加があり、全員がカリキュラムを終了後、指導者として認定されました。さらに、コーディネーターの養成講座を、1 泊 2 日の日程で松阪市を会場に開催し、15 名の参加がありました。 【地域連携部地域支援課】</p> <p>○ 農山漁村地域においてふるさと体験活動の受け皿となる農林漁業体験民宿の開業促進及び支援を図るため、2 月に熊野市で「農林漁業体験民宿セミナー」を開催しました。約 80 名の参加があり、農林漁業体験民宿の開業に向けた留意点や、体験指導方法や安全管理など、開業に向けた理解促進、意欲向上を図ることができました。 【地域連携部地域支援課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	3 (2)② エコツー リズムの 普及促進	環境と観光をつ なげるエコツー リズムの普及促 進を図るため、さ まざまな主体と の連携・協力によ り、同ツーリズム に取り組む団 体が活動しやすい 環境整備を行う 等、持続可能な観 光地づくりを進 めます。	○ 生物多様性の保全を目的として、自主的な活動を行う「里地里山保全活動計画」の認定団体のうち、要望のあった 10 団体の活動に対して支援しました。 【農林水産部みどり共生推進課】 ○ 自然観察会等の行事案内を、HP で情報提供するとともに、年間 155 回の行事により自然とふれあい親しむ機会を提供しました。 【農林水産部みどり共生推進課】 ○ ボランティアが構成員となっている「モリメイト」の活用により参加型の事業運営を行いました。 【農林水産部みどり共生推進課】
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	3 (2)③ 産業観光 の促進	最先端ものづく り産業、地域の伝 統産業・地場産業 等の生産現場の 見学や生産体験 等、産業観光の促 進を通じて、地域 における新たな 観光資源の創出 を支援します。	○ 愛知県や岐阜県と連携し、7 月から 10 月にかけて 3 県にある 148 か所の産業観光施設を回っていただく「2014 産業観光スタンプラリー 愛知・岐阜・三重」を実施しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	3 (2)④ ヘルスツ ーリズム の促進	病気やけがの治 療・予防のほか、 温泉浴による療 養、森林浴による リラックス効果、 菜膳等の食によ る健康維持、ウォ ーキング等の運 動による体力増 強等、心と体の健 康増進・回復を目 的としたヘルス ツーリズムの取 組を促進します。	○ 「みえライフイノベーション推進センター (MieLIP)」の地域拠点である、MieLIP 尾鷲が取り組む「熊野古道健康ウォーキングツアー」の開催にあたり、三重大学、尾鷲市等関係機関とともに情報周知を行いました。 【健康福祉部ライフイノベーション課】 ○ MieLIP 鳥羽が三重大学とともに取り組む潮騒ウォーキングプログラムの開発について、リラックス効果の検証試験に県が協力しました。 【健康福祉部ライフイノベーション課】
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	3 (2)⑤ 医療観光 の促進	先進的な医療サ ービスの提供と、 本県の豊富な観 光資源、地域の食 材等を組み合わ せた医療観光の 受け入れに取り 組む事業者や医 療機関等との連 携を通じて、本県 の観光魅力を P R します。	○ 医療観光市場の情報把握に努めました。 【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	3(2)⑥ スポーツ ツーリス ムの促進	旅先で観光ととも にスポーツを 楽しむ、あるいは スポーツ大会へ の参加とともに 旅を楽しむなど、 スポーツを通じ た新たな魅力の 創出、スポーツを 核とした交流機 会の増大を図り ます。	<p>○ 市町のスポーツイベントの誘致、開催に向けての組織づくりや運営の支援のため、日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）の協力を得て、桑名市、大台町、紀北町にアドバイザーを派遣しました。 【地域連携部スポーツ推進局スポーツ推進課】</p> <p>○ 東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地誘致について、市町や関係団体の取組を促進することにより、桑名市と多気町が誘致に取り組むことを公表しました。 【地域連携部スポーツ推進局スポーツ推進課】</p> <p>○ 日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）を活用した情報収集を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 鈴鹿サーキット及び鈴鹿F-1日本グランプリ地域活性化協議会に参画し、モータースポーツによる魅力創出を図りました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 県営サンアリーナにおいて、トレイルランニングレースの実施や、近隣の旅館街と提携した合宿パックの提案を行うなど、スポーツを目的とした旅行者の誘致に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p>
3 観光産業 の高付加 価値化	(2) 観光産業 の複合化 による新 たなツー リズムへ の対応	バリアフ リー観光 の推進		<p>○ 三重県バリアフリー観光ガイド「みえバリ」を作成しました。 A4版 全88頁 フルカラー 3,000冊 ・観光・アクティビティ情報（120件） ・アクセス情報 ・トイレ情報（121件） ・宿泊施設情報（104件）</p> <p>*県内観光施設において、パーソナルバリアフリー基準による調査・取材を実施 新たに調査を実施した数 101件 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 伊勢志摩バリアフリーツアーセンターによる勉強会 11/11 勤労者福祉会館 34名 日本バリアフリー観光推進機構 理事長 中村 元氏 1/23 近鉄四日市駅 近鉄職員 40名 2/28 鳥羽商工会議所 三重県地域福祉研究会会員及び観光関係者 30名 3/15 玉城町保健福祉会館 障がい者等のサポートボランティア 60名 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 第20回全国中途失聴・難聴者福祉大会でのパネリスト参加 三重県のバリアフリー観光の取り組み状況について紹介 10/25 四日市市文化会館 約500名 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 観光施設へのおもいやり駐車場の設置促進などを、事業者及びUD団体等と連携して実施することにより、三重県のバリアフリー観光を推進しました。 【健康福祉部地域福祉課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(3) 観光産業 の高度化 につながる 県産品の 魅力づく り	3(3)① 三重県営 業本部で の三重ブ ランドの 魅力PR	「三重県営業本部」において、食を目的とする観光につながるよう、「三重ブランド」などの県産品の魅力をPRします。	<p>○ 「三重ブランド」の各種PRツールを作成して、三重テラスにおける情報発信と連携したPRや百五DC等民間事業者とのタイアップなど様々な場面を活用してPRを行いました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 選定した事業者に対し、ブランド力向上のための支援を実施しました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 平成おかげ参りプロジェクト事業を全国の15百貨店と協力して、観光物産展を開催し、全国からの誘客と県産品の販路拡大に取り組みました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 海外への販路拡大事業については、①台湾で三重県物産展を開催し、県産品の販路拡大と海外からの誘客につとめました。②また、タイでも三重県物産展を開催し、海外からの誘客と県産品の輸出促進を進めました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p>
3 観光産業 の高付加 価値化	(3) 観光産業 の高度化 につながる 県産品の 魅力づく り	3(3)② みえフード イノベー ションを 通じた商 品開発及 び県産品 認知度 向上	県産品が広く認知され、競争力を強化できるよう、産学官ネットワーク等により、食に関する新たな商品やサービスを生み出すしくみである「みえフードイノベーション」の創設をとおして、健康など多様なニーズに対応する商品開発や、「三重ブランド」をはじめとする県産品の認知度の向上に取り組めます。	<p>○ みえフードイノベーション・ネットワークが平成24年5月25日に発足し、会員数は356者となりました（平成27年3月末現在）。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ みえフードイノベーションプロジェクトは、6プロジェクトを立ち上げ、合計で43プロジェクト、43の新商品等が生み出されました（平成27年3月末現在）。 そのうち、三重県観光キャンペーンとのコラボ商品開発プロジェクトでは、「みえックスキャンディ2」などを開発、販売しました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 特徴ある優れた産品を選定し、県が首都圏、大都市圏などに発信する「みえセレクション」を27品選定しました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 商品力・営業力向上研修として、フードコミュニケーションプロジェクト（FCP）集中研修を行い、12事業者が参加しました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p>
3 観光産業 の高付加 価値化	(3) 観光産業 の高度化 につながる 県産品の 魅力づく り	3(3)③ みえ地物 一番、地産 地消情報 の提供	県内で生産される農林水産物について、「みえ地物一番」に登録する食品産業事業者との連携により、旬、産地、レシピ等の地産地消にかかる情報を広く提供し、本県ならではの食の魅力づくりを支援します。	<p>○ 4月にイオンモール東員にて「尾鷲産生マグロ」「結びの神」、9月にアピタ鈴鹿店、イオンモール鈴鹿店にて「みえの一番星」、10月イオンモール東員で「熊野地鶏」「三重なばな」「結びの神」「新姫」、2月にアピタ桑名店で「三重いちご」のPRを実施しました。 【農林水産部フードイノベーション課】</p> <p>○ 民間企業との「みえ地物一番」キャンペーンの推進などを通じ、三重ブランドをはじめ6次産業化等による県産品について、認知度の向上を図るとともにホームページ等を通じた情報発信を行いました。 ・企業との連携による食育等のPR回数：8回 【農林水産部フードイノベーション課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
3 観光産業 の高付加 価値化	(3) 観光産業 の高度化 につながる 県産品の 魅力づく り	3(3)④ 「みえ地 域コミュニ ティ応援 ファンド」 、「みえ農 商工連携 推進ファ ンド」	地域の資源を活用した新たなビジネスの創出に向け、「みえ地域コミュニティ応援ファンド」、「みえ農商工連携推進ファンド」等を活用して新商品、新サービスの開発や販路開拓を促進します。	<p>《3(1)①再掲》</p> <p>○ 「みえ地域コミュニティ応援ファンド」については、44件を採択し、「みえ農商工連携推進ファンド」については12件を採択し、その取組を支援しました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部サービス産業振興課、地域資源活用課】</p>
3 観光産業 の高付加 価値化	(3) 観光産業 の高度化 につながる 県産品の 魅力づく り	3(3)⑤ 伝統産業 や地場産 業の活 性化	地域の風土や文化と密接に結びついている伝統産業や地場産業の活性化を図るため、知恵を生かした製品や技術の高度化、高付加価値化によるブランド化を進めます。	<p>○ 伝統産業・地場産業の活性化のため、事業者や産地組合等を訪問して棚卸しと再発見の場づくりを行い、それぞれの産地・事業者の強み・弱みを分析するとともに、課題や今後の方向性の共有を行いました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部地域資源活用課】</p> <p>○ 事業者とデザイナーの連携による新商品開発・販路開拓支援（14件）など、大都市圏等を対象とした地域資源の販路拡大とブランド化に係る取組を実施しました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部地域資源活用課】</p> <p>○ 和のスタイルの提案による海外展開、新しいライフスタイルを提案する展示会への出展、後継者育成、若手技術者による首都圏（首都圏営業拠点等）での展示会開催などの取組を支援するため、補助金を2社に交付し、事業者による海外への情報発信等につなげました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部地域資源活用課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成26年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)① 「おもてなし」の向上	観光事業者をはじめ、県民の主体的な参画も得ながら、地域全体で「おもてなし」向上に取り組み、観光旅行者の満足度を高め、リピーターの確保につなげていきます。	<p>《2(3)④再掲》</p> <p>○ 「おもてなし」の向上と県内各市町での案内機能の充実を行っていただくために、三重県観光キャンペーンに係わるみえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、関係団体等を対象にセミナー及び現地研修を実施しました。接遇と情報発信をテーマに研修会を津市で2回開催しました。また、現地研修を含む情報交換会を、本年度オープンした三重県総合博物館MieMuで開催しました。みえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、観光関係団体、地域づくり団体や県・市町等の職員約150名の参加をいただきました。</p> <p>第1回：平成26年6月19日(木) プラザ洞津 「声と言葉で心に響く♪おもてなし」</p> <p>第2回：平成27年3月6日(金) アスト津 「明日からできる！情報発信というおもてなし」</p> <p>【現地見学会】 第1回：平成26年12月10日(水) 三重県総合博物館MieMu 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>《4(1)④再掲》</p> <p>○ 県職員に、三重の観光についての知識を得てその魅力を発信してもらうため研修会を開始しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラッシュアップ研修「三重を知る」『道の世界遺産 熊野古道 伊勢路の魅力～熊野古道世界遺産登録10周年を迎えて～』を開催しました。 平成26年6月16日 勤労者福祉会館 150名 熊野古道センター センター長 川端 守氏 ・三重県マーケティング勉強会 平成26年8月8日 勤労者福祉会館 20名 スイスツエルマット観光局 山田 桂一郎氏 ・バリアフリー観光勉強会 平成26年11月11日 勤労者福祉会館 34名 日本バリアフリー観光推進機構 理事長 中村 元氏 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)② 観光キーパーソンの育成	観光事業者等を対象とした学びの場を設け、経営者や有識者を招いた実践的な研修やフィールドワーク等を通じ、地域の観光振興の核となる観光キーパーソンを育成します。	<p>《2(3)④再掲》</p> <p>○ 「おもてなし」の向上と県内各市町での案内機能の充実を行っていただくために、三重県観光キャンペーンに係わるみえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、関係団体等を対象にセミナー及び現地研修を実施しました。接遇と情報発信をテーマに研修会を津市で2回開催しました。また、現地研修を含む情報交換会を、本年度オープンした三重県総合博物館MieMuで開催しました。みえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、観光関係団体、地域づくり団体や県・市町等の職員約150名の参加をいただきました。</p> <p>第1回：平成26年6月19日(木) プラザ洞津 「声と言葉で心に響く♪おもてなし」</p> <p>第2回：平成27年3月6日(金) アスト津 「明日からできる！情報発信というおもてなし」</p> <p>【現地見学会】 第1回：平成26年12月10日(水) 三重県総合博物館MieMu 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)③ おもてなしの心あふれる観光ボランティアガイドの育成	県内のボランティアガイド団体で構成される「おもてなし三重観光ボランティアガイド協議会」の活動を支援し、おもてなしの心あふれるガイドの育成、技術向上、ネットワーク化を促進します。	○ (公社)三重県観光連盟を通じて、ボランティアガイド間の連携、組織強化を図るため、ボランティアガイド連絡協議会の支援を実施するとともに、研修会、地域交流会等を開催しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)④ 講演会等の開催を通じた観光人材の育成、男女共同参画	市町、県民、観光事業者、観光関係団体等、観光振興に取り組むさまざまな主体を対象とした、講演会、研修会、シンポジウム等の開催を通じて、知識の習得、専門性の向上等に取り組めます。また、その際には、男女共同参画等の視点も踏まえ、性別にかかわらず、地域で活躍することのできる観光人材の育成を図っていきます。	《2(3)④再掲》 ○ 「おもてなし」の向上と県内各市町での案内機能の充実を行っていただくために、三重県観光キャンペーンに係わるみえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、関係団体等を対象にセミナー及び現地研修を実施しました。接遇と情報発信をテーマに研修会を津市で2回開催しました。また、現地研修を含む情報交換会を、本年度オープンした三重県総合博物館MieMuで開催しました。みえ旅案内所の皆様をはじめ、観光事業者、観光関係団体、地域づくり団体や県・市町等の職員約150名の参加をいただきました。 第1回：平成26年6月19日(木) プラザ洞津 「声と言葉で心に響く♪おもてなし」 第2回：平成27年3月6日(金) アスト津 「明日からできる！情報発信というおもてなし」 【現地見学会】 第1回：平成26年12月10日(水) 三重県総合博物館MieMu 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】 ○ 県職員に、三重の観光についての知識を得てその魅力を発信してもらうため研修会を開始しました。 ・ブラッシュアップ研修「三重を知る」『道の世界遺産 熊野古道 伊勢路の魅力～熊野古道世界遺産登録10周年を迎えて～』を開催しました。 平成26年6月16日 勤労者福祉会館 150名 熊野古道センター センター長 川端 守氏 ・三重県マーケティング勉強会 平成26年8月8日 勤労者福祉会館 20名 スイスツエルマツ観光局 山田 桂一郎氏 ・バリアフリー観光勉強会 平成26年11月11日 勤労者福祉会館 34名 日本バリアフリー観光推進機構 理事長 中村 元氏 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)⑤ 美し国おこし・三重	「美し国おこし・三重」の取組により、地域づくりのキーパーソンとなる人材の育成を図るほか、専門家派遣や交流会の開催等を通じて、主体的に地域をよりよくしようとする団体である「パートナーグループ」の活動を支援するための環境を整備します。	<p>○ 地域をよりよくする活動を自発的に行うパートナーグループに 67 グループが新たに登録し、743 グループが登録しました(平成 26 年度末)。そのうち、観光に関する活動を行うパートナーグループは 284 団体になります。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進 P T】</p> <p>○ 地域をよりよくしようとする活動を自発的に行うパートナーグループの活動を支援するため、専門家派遣を、26 件、延べ 71 回実施しました。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進 P T】</p> <p>○ パートナーグループによる地域づくりを進めるため、必要な初期投資にかかる経費を対象に、パートナーグループに対して 4 件、市町が参画する実行委員会に対して 1 件(名張市・伊賀市・津市合同)財政的支援を実施しました。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進 P T】</p> <p>○ “人と人、人と地域、人と自然の絆づくり”のきっかけとなる「縁」をキーワードに、「縁博(えんぱく)みえ 2014」、「『三重県民大縁会(だいえんかい)』～縁ジョイ!みえの地域づくり～」を開催するとともに、全国レベルの研修等の場である地域づくり団体全国研修交流会を「第 32 回地域づくり団体全国研修交流会三重大会」として三重県で開催しました。 ・「縁博(えんぱく)みえ 2014」 パートナーグループ等が企画・実施したイベント数 1,243 件 ・「三重県民大縁会(だいえんかい)」 パートナーグループブース出展数 139 グループ ・「第 32 回地域づくり団体全国研修交流会三重大会」 県内外の地域づくり実践者の参加者数 約 1,100 人 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進 P T】</p>
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)⑥ 東紀州地域振興公社(旧「東紀州観光まちづくり公社」)、熊野古道語り部の育成	熊野古道伊勢路の価値や魅力を多くの観光旅行者に伝えるため、「東紀州観光まちづくり公社」が主催する養成講座等を通じて、熊野古道語り部の育成や技術力の向上に取り組んでいます。	<p>○ 熊野古道伊勢路を守り伝えるために、熊野古道保存会の古道保全活動、企業の社会貢献活動と連携した清掃ウォーク等の開催、人材育成のための熊野古道語り部養成講座やレベルアップ講座、英語語り部勉強会などの活動や、みえ熊野学研究会と連携した熊野文化講座や地域巡回講座の開催などの活動に対し、東紀州地域振興公社を通じて支援しました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】</p>
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)⑦ 宮川流域エコミュージアム、宮川流域案内人の育成	宮川流域エコミュージアムにおける宮川流域案内人の育成、資質向上に向けた支援を行います。	<p>○ 「宮川流域案内人」の登録は約 300 名(平成 27 年 3 月末現在)となっており、平成 18 年 4 月に設立された「宮川流域案内人の会」を中心に主体的に活動しています。流域案内人の会による企画・協力事業は、平成 26 年度 75 件開催され、3,897 名が参加しました。 【地域連携部地域支援課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(1) 観光地づくりを担う人材の育成(「おもてなし」の向上)	4(1)⑧ 農林漁業体験等の指導者研修	農林漁業体験等さまざまな体験活動の指導者研修等の開催により、県内各地のグリーン・ツーリズムの取組を支援します。	<p>《3(2)①再掲》 ○ 農山漁村の豊かな地域資源を生かした「いなかビジネス」の創出と質的向上に向け、交流アドバイザー(講師)を10回派遣しました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>《3(2)①再掲》 ○ 農山漁村の資源と都市のニーズを結んで農村企業を促進するコーディネーターを養成する講座(6回連続)を開催しました。 【農林水産部農業基盤整備課】</p> <p>《3(2)①再掲》 ○ 子ども・学生のグループを受け入れた際に、農林漁業体験などを指導する体験指導者の養成講座を、3泊4日の日程で南伊勢町を会場に開催し、23名の参加があり、全員がカリキュラムを終了後、指導者として認定されました。さらに、コーディネーターの養成講座を、1泊2日の日程で松阪市を会場に開催し、15名の参加がありました。 【地域連携部地域支援課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(2) 県民の観光行動の促進	4(2)① 観光パンフレットの掲出	県内の公共施設、駅、大型商業施設、コンビニエンスストア等、多くの県民が利用する施設において、季刊紙「観光三重」等観光パンフレットの掲出を通じて、旬の観光情報を提供します。	○ (公社)三重県観光連盟により、三重県の旬の情報を提供するために、季刊紙「観光三重」(年4回、95万部)等を発行し、県内の公共施設、駅、大型商業施設、コンビニエンスストア等、多くの県民が利用する施設で掲出しました。また、県内外のサービスエリアや観光物産展等で配布しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(2) 県民の観光行動の促進	4(2)② 郷土教育の推進	「三重の文化(郷土の文化編)」等の教材を活用しながら、郷土を愛する心や地域に貢献する意欲を育む郷土教育を推進します。	○ 教材「三重の文化」を活用した中学校の割合は92.9%であり(平成26年度)、昨年度末と比べてポイント上昇しました。 【教育委員会事務局小中学校教育課】 ○ 教材「三重の文化」を活用した指導事例を作成し、三重県教育委員会のホームページに12事例掲載しました。また、中学生が郷土への愛着等を育み、積極的に自らの考えや意見を発信することをねらいとし、教材「三重の文化」等を参考に「郷土三重を英語で発信!〜ワン・ペーパー・コンテスト〜」を実施しました。 【教育委員会事務局小中学校教育課】 ○ 郷土教育の推進を図るため、ふるさと通信「知ろう 語ろう 熊野古道」を作成し、県内の国・公・私立の小学校(5・6年)、中学校、高等学校、特別支援学校(小学部5年生以上)の全児童生徒(約14万人)に配付しました。 【教育委員会事務局小中学校教育課】 ○ 郷土学習のさらなる充実を目的に、教材「三重の文化」の題材をもとにした「ふるさと三重かるた」(平成26年度配付分)を印刷・配付しました。 【教育委員会事務局小中学校教育課】 ○ 熊野古道世界遺産登録10周年を記念して、開館記念企画展第4弾として「祈りと癒しの地熊野」を開催しました。(展示観覧者17,620人)また、三重県に多く残存する曼荼羅に関する研究の動向や絵解きについて、「熊野観心十界曼荼羅に関するシンポジウム」を開催しました。(11/2 53人) 【環境生活部文化振興課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(2) 県民の観光行動の促進	4(2)③ 歴史的・文化的資産の活用による人材育成・地域づくり	県民が、地域の文化財の価値に気づき、大切に守り伝え、積極的に活用できる環境づくりを進めるとともに、歴史的・文化的資産を生かした人づくりや地域づくりの取組を促進します。	<p>○ 地域と協働しながら、地域に残る歴史的・文化的資産を活用した街道ウォーク、まちかど博物館合同展示会等（21 件）を実施しました。 【環境生活部文化振興課】</p> <p>○ 「海女の一日」をテーマに、鳥羽・志摩の海女漁について映像記録を作成しました。（ダイジェスト、普及編、記録編）また、海女漁の魅力を広く発信するため、展示会にあわせて、映像記録を公開しました。 【教育委員会事務局社会教育・文化財保護課】</p> <p>○ 海女漁の魅力について県民及び国内へ情報発信を行うため、展示会を県内 3ヶ所（県立図書館、志摩市阿児アリーナ、伊賀市ハイトピア）、県外 2ヶ所（石川県庁、三重テラス）で開催するとともに、平成 27 年 2 月 11 日には展示解説を開催し 45 名の参加を得ました。 【教育委員会事務局社会教育・文化財保護課】</p> <p>○ 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が、登録 10 周年を迎え、次世代に世界遺産の価値と魅力を伝えるため、トークセミナーを実施し、その成果を電子書籍として公開しました。 【教育委員会事務局社会教育・文化財保護課】</p> <p>○ 地域の貴重な文化財を見直し、文化財の活用によるまちづくりを推進するため、活用事業と保存事業をあわせた 35 事業に補助金を交付しました。 【教育委員会事務局社会教育・文化財保護課】</p> <p>○ 文化財を活用した積極的な取組を紹介した『実績報告集』を刊行・配布しました。 【教育委員会事務局社会教育・文化財保護課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4 (3) ① 観光旅行者の周遊性・滞在性の向上	観光事業者、観光関係団体等との連携により、観光旅行者の周遊性・滞在性を高める取組を進めます。	<p>《1 (1) ①再掲》</p> <p>○ 官民が連携して「みえ旅パスポート」の発給促進、「みえ旅案内所」及び「みえ旅おもてなし施設」の充実を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みえ旅パスポート発給数 396,839 件 (3 月末現在) ・みえ旅案内所の設置 87 施設 ⇒ 102 施設 ・みえ旅おもてなし施設の募集 820 施設 ⇒ 859 施設 <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>《1 (1) ①再掲》</p> <p>○ オフィシャルガイドブックやエリアパンフレットを半年ごとにテーマを更新して発行し、県内各地の旬の情報発信やキャンペーン企画の情報提供を行いました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>《1 (1) ①再掲》</p> <p>○ 首都圏等大都市圏においては、三重テラス、関西事務所、名古屋桜通りカフェと連携して、雑誌媒体を活用した女性、シニア等に狙いを絞った情報発信やメディア等を対象にした企画提案、情報発信を行うとともに、地方では、百貨店の物産展などでPRを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディア掲載件数 73 件 (新聞 47 回、雑誌 19 回、TV 7 回) <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>《1 (1) ①再掲》</p> <p>○ 熊野古道世界遺産登録 10 周年に併せて、定額料金で高速道路が乗り放題となる「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」ドライブプランを、中日本高速道路株式会社と連携し企画実施しました。(実施期間：平成 26 年 7 月 24 日～11 月 30 日)</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 三重県南部地域活性化基金を活用し、玉城町、度会町、南伊勢町が連携して行う取組に対して支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サニーロード沿線マップをリニューアルし、沿道の店舗で使えるクーポン掲載とスタンプラリーを行うとともに、高速SA (土山、御在所、安濃) 等で配布しました。 ・3 町合同の産直市「サニー市」を平成 26 年 11 月から計 3 回開催するとともに、ノベルティグッズ (3 町ゆるキャラ缶バッジ) を作成し、PR イベント等で配布しました。 ・情報発信拠点「城 (ぐすく)」(玉城町) にサニーロード周知のための案内看板を設置しました。 <p style="text-align: right;">【地域連携部南部地域活性化局南部地域活性化推進課】</p> <p>○ 三重県南部地域活性化基金を活用し、大台町、大紀町、紀北町が連携して行う取組に対して支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 町の一押しグルメや観光スポット、宿泊施設等を掲載した「東海ウォーカー大台町・大紀町・紀北町 特別号」を作成するとともに、facebook ページも作成し、双方からの情報発信を行いました。 ・ラジオ番組「大台、大紀、紀北の旬感通信」において、各町のイベント情報等を放送しました。 ・R42 号の情報発信拠点である「大杉谷自然の家」「山海の郷紀勢」「紀伊長島マンボウ」「道の駅海山」において情報発信コーナー等を整備しました。 <p style="text-align: right;">【地域連携部南部地域活性化局南部地域活性化推進課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)② 地域における観光の魅力づくりへの支援	「鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会」等、地域が主体となった取組への参画を通じて、地域における観光の魅力づくりを支援します。	<p>○ 鈴鹿F-1 日本グランプリ地域活性化協議会のおもてなし部会に参画し、県内の宿泊施設に対しF-1 サポート宿泊施設への協力を依頼しました。 また前夜祭及びグランプリ当日、会場にて、F-1 専用スタンプによるみえ旅パスポートの臨時発給を行う等、キャンペーンと連動した取組を実施しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>○ 県内外に対して、鈴鹿F-1 日本グランプリの開催を、ラジオ、テレビ、広報誌、新聞等県で活用できる媒体により情報発信しました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)③ 世界遺産熊野古道の保存、活用に向けた関係機関との連携	平成 26 (2014) 年 7 月の熊野古道世界遺産登録 10 周年も視野に入れ、奈良県、和歌山県及び関係市町等との連携により、その保存とさらなる活用に向けた取組を進めます。	<p>《1(2)③再掲》</p> <p>○ 三重県、奈良県、和歌山県の三県からなる「吉野・高野・熊野の国」事業実行委員会において、連携しながら事業を行い、世界遺産登録 10 周年を迎えた世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の知名度向上、集客増加を図りました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】</p> <p>○ 熊野古道世界遺産登録 10 周年記念事業として、記念式典や食の幸フェスタなどのオープニングイベントをはじめ、熊野古道セミナー、熊野古道伊勢路踏破ウォーク、フィナーレイベント等を開催した結果、平成 26 年の熊野古道来訪者数は過去最多の 42 万 9 千人となりました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】</p> <p>○ 10 周年を契機に地域内外の方々の熊野古道に対する関心を高め、伊勢路を守り伝えていく取組への参加の第一歩となるように「熊野古道サポーターズクラブ」を設置し、会員に対して熊野古道の情報を提供するとともに、保全作業の体験等を通じて熊野古道に対する理解を深め、熊野古道を守り伝えていく意識の醸成を図りました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】</p> <p>○ 三重県南部地域活性化基金を活用し、東紀州地域の市町が連携して行う取組に対し支援しました。 ・ガイドブックやホームページの充実、テレビ番組とのタイアップ、SA・PAを活用したプロモーション、三重テラス等における観光展開等により東紀州地域の魅力ある資源をきめ細かく情報発信したり、各市町が実施する熊野古道世界遺産登録 10 周年事業をPRすることで、東紀州全体の魅力の発信力を高め、市町への一層の誘客を促進しました。 【地域連携部南部地域活性化局南部地域活性化推進課、東紀州振興課】</p> <p>○ 三重県南部地域活性化基金を活用し、伊勢市から大紀町までの 5 市町が連携して行う取組に対し支援しました。 ・情報発信ツールとして、共通デザインののぼりや熊野古道伊勢路沿線グルメ・宿泊・お土産マップ等を作成し、伊勢からはじまる「熊野古道伊勢路」のPRを行うとともに、地域の魅力を体感できるリレーイベントを開催しました。 【地域連携部南部地域活性化局南部地域活性化推進課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)④ 海女や忍者等を活用した三重県観光モデルの構築	日本においても希少で独自性を持ち、本県が世界に誇りをもって情報発信することができる、海女や忍者等の観光資源を活用して、三重県観光の新たなモデル構築に向けた取組を進めます。	<p>《2(1)②再掲》</p> <p>○ 世界に誇れる優れた観光資源「忍者(NINJA)」をテーマに、他地域のモデルとなる新しい取組を構築することで、地域の観光産業を活性化し、三重県観光の持続的な発展につなげていくことを目的として、平成24年8月30日に「伊賀流忍者観光推進協議会」を設立しました。伊賀流忍者をキーにホームページやロゴマークの活用や、PR動画の制作、PRイベントの開催など、伊賀・名張両地域を一体的に発信していくための基盤づくりに取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p> <p>《2(1)②再掲》</p> <p>○ 古くから女性が素潜りにより自然と共生しながら漁をする海女漁業並びに海女に関する資源を貴重な地域資源と位置づけ、ユネスコ無形文化遺産登録を目指し、海女漁業の継続、海女文化の振興及び海女文化による観光振興を図ることを目的とする「海女振興協議会」を通じ、海女サミットin志摩2014、海女サポート&ガイド養成、地域人づくり事業を活用した人材育成、海女映像記録集(写真)の作成など、海女の情報発信、文化振興に取り組みました。 【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)⑤ 「美し国おこし・三重」を通じた地域づくり活動への支援	「美し国おこし・三重」の取組等を通じて、地域が主体的に取り組む地域づくりの活動を支援し、地域の魅力や価値を高めます。	<p>○ 地域をよりよくする活動を自発的に行うパートナーグループに67グループが新たに登録し、743グループが登録しました(平成26年度末)。そのうち、観光に関する活動を行うパートナーグループは284団体になります。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p> <p>《4(1)⑤再掲》</p> <p>○ 地域をよりよくしようとする活動を自発的に行うパートナーグループの活動を支援するため、専門家派遣を、26件、延べ71回実施しました。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p> <p>《4(1)⑤再掲》</p> <p>○ パートナーグループによる地域づくりを進めるため、必要な初期投資にかかる経費を対象に、パートナーグループに対して4件、市町が参画する実行委員会に対して1件(名張市・伊賀市・津市合同)財政的支援を実施しました。 【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p> <p>《4(1)⑤再掲》</p> <p>○ “人と人、人と地域、人と自然の絆づくり”のきっかけとなる「縁」をキーワードに、「縁博(えんぱく)みえ2014」、「『三重県民大縁会(だいえんかい)』～縁ジョイ!みえの地域づくり～」を開催するとともに、全国レベルの研修等の場である地域づくり団体全国研修交流会を「第32回地域づくり団体全国研修交流会三重大会」として三重県で開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縁博(えんぱく)みえ2014 パートナーグループ等が企画・実施したイベント数 1,243件 ・「三重県民大縁会(だいえんかい)」 パートナーグループブース出展数 139グループ ・「第32回地域づくり団体全国研修交流会三重大会」 県内外の地域づくり実践者の参加者数 約1,100人 <p>【地域連携部「美し国おこし・三重」推進PT】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)⑥ 環境に配慮したクリーンな観光地づくり	県内の主要な観光地で、地域や企業などのさまざまな主体が共に取り組む「電気自動車(EV)等で観光できる環境づくり」と「EV等を地域で使う環境づくり」を通じて、「環境に配慮したクリーンな観光地」の見える化を進めます。	○ 低炭素なまちづくりを進めるため、伊勢市における電気自動車(EV)等を活用した低炭素社会モデル事業において、協議会が策定した行動計画に基づき、充電施設や電気自動車(EV)の普及を図るとともに、電気バスや電気自動車で回るスタンプラリー企画(エコスタンプラリー)を実施しました。 【環境生活部地球温暖化対策課】
4 おもてなしの心を形にする観光の魅力づくり・人づくり	(3) 地域の持続的な観光地づくりへの支援	4(3)⑦ 市町や地域の広域団体による観光振興計画策定	市町や地域の広域団体が、当該地域の観光振興の指針となる計画(観光振興計画等)を策定し、地域のコーディネーターとなって戦略的に観光振興を進めることができるよう、必要な情報、ノウハウの提供等による支援を行います。	○ 名張市観光戦略推進会議に委員として参画し、「名張市観光戦略の方針(案)」の審議等を通じ、観光戦略の策定に向けて助言を行いました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】 ○ 桑名市の観光懇話会に参与として参画し、桑名市観光振興プランに掲げる戦略の推進に向け、助言しました。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】 ○ 平成 27 年 3 月 31 日現在、県内 29 市町のうち、11 市 3 町、計 14 市町が観光振興計画を策定しています(津市、四日市市、伊勢市、松阪市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、鳥羽市、いなべ市、伊賀市、名張市、菟野町、明和町及び紀北町)。また、広域団体として 2 団体が観光振興計画を策定しています(北伊勢広域観光推進協議会、公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構)。 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	5(1)① 景観に配慮したまちづくりの促進	市町や県民等による主体的な景観づくりを進めるため、景観づくりに関する情報提供や知識の普及、専門家派遣等を行うとともに、「三重県景観計画」に基づく届出制度の運用等を通じて、景観に配慮した建築物の建築等の促進を図ります。	○ 県民や事業者、市町とともに、地域の個性を活かした魅力ある景観づくりを県内全域で展開していくため、景観アドバイザーの派遣など、市町の景観づくりの取組を支援しました。 【県土整備部景観まちづくり課】 ○ 世界遺産を有する東紀州地域における景観保全のため、世界遺産熊野川から見える地域の景観保全を図ることを目的とした「熊野川流域景観計画」を平成 27 年 1 月に策定しました。 【県土整備部景観まちづくり課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	5(1)② 街路整備や電線類の地中化	都市環境を保全し、その機能を高めるため、街路の整備や電線類の地中化に向けた取組を進めます。	○ 電線共同溝の整備を実施しました。駅周辺等の都市計画道路において、電線類の地中化により、歩行空間の整備を行い道路のバリアフリー化を進め、安全で快適な魅力ある道づくりを目指して事業を推進しました。 【県土整備部都市政策課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	5(1)③ 日本風景街道『伊勢熊野みち』推進協議会	「日本風景街道『伊勢熊野みち』推進協議会」が策定した活動計画をもとに、熊野古道を軸とする東紀州を中心とした地域において、関係市町や団体が連携を図りながら、地域の資源を活用したまちづくり、快適で美しい観光・交流空間づくりを進めます。	○ 世界遺産・熊野古道を活用した地域づくり、景観づくりを推進するため、日本風景街道『伊勢熊野みち』推進協議会の開催により、協議会の構成員である関係団体及び市町間の交流を深めました。 【県土整備部景観まちづくり課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	5(1)④ 潤いのある水辺空間の創出	河川が本来有している多様性に富んだ自然環境と河川景観を保全・整備するとともに、また、海浜を保全・復元することにより、潤いのある水辺空間の創出を進めます。	○ 三滝川において、魚の棲みかとなる魚巢ブロックを使用した護岸等を整備することにより、水辺空間の創出や河川環境保全に努めました。また、大内山川において、景観アドバイザー制度を活用した設計を行いました。 【県土整備部河川課】 ○ 井田地区海岸において人工リーフ、宇治山田港海岸等で緩傾斜護岸、磯津地区海岸等で養浜等を実施し、周辺の自然環境や景観に配慮した親水空間の創出を進めました。 【県土整備部港湾・海岸課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(1) 観光地の景観形成・快適な交流空間づくり	5(1)⑤ 自然公園や自然遊歩道等の整備及び維持管理	国立公園、国定公園、県立自然公園において豊かな自然とのふれあいを図るため、公園や自然遊歩道等の施設整備、安全確保のための維持管理を行います。	<p>○ 登茂山園地、青山高原ふるさと公園、藤原岳坂本休憩所公衆トイレ、大杉谷登山センター、鳥羽ビジターセンター、東海自然歩道及び近畿自然歩道について、市町や関係団体に施設の維持管理業務やパトロール業務を委託しました。 【農林水産部みどり共生推進課】</p> <p>○ 老朽化している下記施設の修繕を実施しました。 ・近畿自然歩道御座漁港公衆トイレ（志摩市） 【農林水産部みどり共生推進課】</p> <p>○ 老朽化等により損傷した以下の3施設を改修しました。 ・東海自然歩道 2箇所（菰野町1箇所・鈴鹿国定公園内）（四日市市1箇所・公園区域外） ・近畿自然歩道 1箇所（紀北町1箇所・公園区域外） ・藤原岳登山歩道線 1箇所（いなべ市1箇所・鈴鹿国定公園内） ・青山高原園地（ふるさと公園）1箇所（津市1箇所・室尾赤目青山国定公園内） 【農林水産部みどり共生推進課】</p> <p>○ 平成25年度に被災した以下の2施設を復旧しました。 ・鬼ヶ城園地 1箇所（熊野市1箇所・吉野熊野国立公園内） ・阿田和園地 1箇所（熊野市1箇所・吉野熊野国立公園内） 【農林水産部みどり共生推進課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(2) 人にやさしい観光地づくり	5(2)① ユニバーサルデザインに配慮した施設整備	市町や関係機関等との連携・協力のもと、ユニバーサルデザインに配慮された施設整備を進めます。	<p>○ 三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進条例に基づき公共的施設の設計段階で事前協議を行い、完成した公共的施設に対して適合証を交付しました。 【健康福祉部地域福祉課】</p> <p>○ 「三重おもいやり駐車場利用証制度」に基づく「おもいやり駐車場」の適正利用がはかれるよう各種啓発活動を実施しました。その結果、平成 26 年度末には、利用証の交付者数は 27,244 人、「おもいやり駐車場」の登録届出数は 1,961 施設、3,956 区画となりました。 【健康福祉部地域福祉課】</p>
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(2) 人にやさしい観光地づくり	5(2)② バリアフリー化の促進	各事業者や関係団体等の理解・協力を得ながら、交通機関、観光施設、宿泊施設等におけるバリアフリー化を促進します。	<p>○ 鉄道事業者、国、地元市と調整を進め、近鉄伊勢若松駅のバリアフリー化事業に着手しました。 また、近鉄桑名駅、JR 四日市駅のバリアフリー化事業が完了し、供用開始されました。 【健康福祉部地域福祉課】</p> <p>《3(2)再掲》</p> <p>○ 三重県バリアフリー観光ガイド「みえバリ」を作成しました。 A4 版 全 88 頁 フルカラー 3,000 冊 ・観光・アクティビティ情報 (120 件) ・アクセス情報 ・トイレ情報 (121 件) ・宿泊施設情報 (104 件)</p> <p>* 県内観光施設において、パーソナルバリアフリー基準による調査・取材を実施 新たに調査を実施した数 101 件 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 伊勢志摩バリアフリーツアーセンターによる勉強会 11/11 勤労者福祉会館 34 名 日本バリアフリー観光推進機構 理事長 中村 元氏 1/23 近鉄四日市駅 近鉄職員 40 名 2/28 鳥羽商工会議所 三重県地域福祉研究会会員及び観光関係者 30 名 3/15 玉城町保健福祉会館 障がい者等のサポートボランティア 60 名 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 第 20 回全国中途失聴・難聴者福祉大会でのパネリスト参加 三重県のバリアフリー観光の取り組み状況について紹介 10/25 四日市市文化会館 約 500 名 【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(2) 人にやさしい観光地づくり	5(2)③ 熊野古道を歩く観光旅行者の利便性向上	熊野古道の沿線地域において、まちなか案内所を設置するとともに、サイン整備を進める等、古道を歩く観光旅行者の利便性の向上を図ります。	○ 熊野古道世界遺産登録 10 周年事業として、伊勢から熊野までを歩くルートを示した熊野古道伊勢路図絵（新・平成の熊野詣）を発行するとともに、利用者がホームページからデータをダウンロードできるように利便性の向上を図りました。 【地域連携部南部地域活性化局東紀州振興課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(2) 人にやさしい観光地づくり	5(2)④ 多言語表記等による案内表示	県内の主要な観光地、交通結節点での多言語表記等、案内表示の設置を促進します。 (再掲)	《2(3)②再掲》 ○ 県管理道路の案内標識については、道路標識設置基準等に基づき、ローマ字併用表記による設置に取り組みました。 【県土整備部道路管理課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心の確保	5 (3)① 危機管理情報の収集及び伝達体制づくり	地震、津波、集中豪雨等による自然災害の情報やテロ等の有事関連情報の迅速な収集と伝達体制づくりを促進します。	<p>○ 防災情報提供プラットフォーム(①「防災みえ.jp」ホームページ、②「防災みえ.jp」の防災情報メール配信サービス、③情報を収集する「防災情報システム」)により、迅速な情報の収集と伝達を行いました。</p> <p style="text-align: right;">【防災対策部防災対策総務課】</p> <p>○ 防災に関する情報を「防災みえ.jp」の防災情報メール配信サービスで行っていることのPRを行いました。</p> <p style="text-align: right;">【防災対策部防災対策総務課】</p>
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心の確保	5 (3)② 避難訓練等への支援	地域との連携による避難訓練等を支援し、的確な避難誘導が行える体制づくりを促進します。	<p>○ 三重県・志摩市総合防災訓練(平成26年11月2日実施)において、地域住民への津波避難訓練を実施することにより、実働時において観光客等地理不案内者に対しても避難誘導する意識を促進しました。</p> <p style="text-align: right;">【防災対策部災害対策課】</p> <p>○ 住民一人ひとりの津波避難計画である「Myまっぷラン」を中核とした「津波避難に関する三重県モデル」の地域への水平展開について、地域防災総合事務所・地域活性化局と連携し、実践的なワークショップなど地域の取組への実地支援や財政支援を行った結果、「Myまっぷラン」を活用した取組が、5市町16地区で行われました。</p> <p style="text-align: right;">【防災対策部防災企画・地域支援課】</p> <p>○ 男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営や、避難所における障がい者、外国人への配慮について、平成24年度に改定した「三重県避難所運営マニュアル策定指針」及び基本モデルを用いた避難所単位の運営マニュアル策定の取組の水平展開についても同様に、実地支援を行った結果、7市町17地区で取組が行われました。</p> <p style="text-align: right;">【防災対策部防災企画・地域支援課】</p> <p>○ 観光事業者用防災啓発パンフレットを用いて、三重県観光連盟、三重県旅館ホテル生活衛生同業組合の各総会において、観光事業者等を対象とした啓発活動を行いました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 三重県新地震・津波対策行動計画の選択集中テーマの一つである「命が危ぶまれる観光客対策」として、観光事業者、観光関係団体を対象とした防災面からの人材育成、観光客への対応を想定した避難訓練の実施、主要観光地の防災対策等に係る課題検討の場づくりを取りまとめました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ 三重県の外国語HPと防災みえ外国語HPとのリンクにより連携を図るとともに、災害時を想定した外国語コミュニケーションカードを作成しました。</p> <p style="text-align: right;">【雇用経済部観光・国際局国際戦略課】</p>
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心の確保	5 (3)③ HACCP(ハサップ)、自主衛生管理システムの導入促進	食品関連事業者に対して、HACCPの考え方に基づく、食品の製造・加工工程への自主衛生管理システムの導入を促進します。	<p>○ 食品の安全・安心確保のためには、事業者自らが行う、自主的な衛生管理が重要であるため、HACCP手法を導入した衛生管理プログラムからなる「三重県食品の自主衛生管理認定制度」の推進を実施(新規取組開始5施設、取組施設総数168施設)しました。</p> <p style="text-align: right;">【健康福祉部食品安全課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心の確保	5 (3)④ 食品表示の監視指導	食品表示に関して、食品関連事業者に対して監視及び指導を行うとともに、普及・啓発を図ります。	○ 食品衛生法及びJAS法等に基づく食品表示について、消費者及び事業者への普及啓発を進めるとともに、営業施設の立入検査の際に監視指導を実施しました (1,867 事業者) 【健康福祉部食品安全課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心の確保	5 (3)⑤ 県管理の道路・河川・海岸等施設の維持管理	県管理の道路・河川・海岸等の施設について、安全・安心の確保に向けて計画的な維持管理を進めます。	○ 道路施設が将来にわたって機能を充分発揮し道路利用者の安全・安心を確保するため、緊急点検を実施し、緊急に対応すべきものについて修繕を実施しました。トンネル、横断歩道橋について、予防保全的な観点で長寿命化計画の策定を進めるとともに、計画的な修繕・更新を実施しました。 【県土整備部道路管理課】 ○ 河川・海岸等の施設を良好な状態に保つため、点検や修繕を行い、災害の未然防止に努めました。 【県土整備部流域管理課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心の確保	5 (3)⑥ 飲食店及び旅館事業者等からの暴力団排除	「三重県暴力団排除条例」に基づく普及・啓発を進め、飲食店及び旅館事業者等からの暴力団排除に取り組みます。	○ 「三重県暴力団排除条例」の広報啓発活動 各種会合等において、条例に関する講話を行い、飲食店及び旅館事業者等を含む事業者等に条例の周知を図りました。 【警察本部刑事部組織犯罪対策課】 ○ 「不当要求拒否宣言の街」の設立 地域における情勢を勘案し、飲食店事業者による暴力団排除組織である不当要求拒否宣言の街の設立を推進した結果、津市内に「大門地区不当要求拒否宣言の街」の設立にいたりました。 既存の 8 組織についても、総会等の開催を行うことにより、各組織における暴力団排除気運の高揚を図りました。 【警察本部刑事部組織犯罪対策課】 ○ 利用規約等への暴力団排除条項導入に対する働き掛けあらゆる機会を通じて、宿泊事業者等の施設管理者に対し、暴力団排除条項の導入を働きかけました。 【警察本部刑事部組織犯罪対策課】 ○ 暴力団による県民生活や事業活動に対する不当な要求を排除し、安全で平穏な生活の確保と健全な社会経済活動の発展の基盤となる暴力団排除の気運を醸成することを目的に、三重交通路線バス広告、県内 3 地区（北勢・中勢・南勢）5 台の広報看板を作成して掲出しました。 【環境生活部交通安全・消費生活課】
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(3) 観光旅行の安全・安心の確保	5 (3) 不特定多数が利用する大規模建築物の耐震化		○ 耐震診断が義務化されたホテル、旅館等の不特定多数が利用する大規模建築物の耐震化を促進するために、耐震診断の支援を行うとともに、緊急に安全性を高めていく必要がある以下のいずれかに該当する建築物に対する耐震改修の支援を行いました。 ・災害時に避難所として活用される建築物（ホテル、旅館等） ・災害時に自力で避難が困難な避難弱者が利用する建築物（病院、学校等） 【県土整備部建築開発課】

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(4) 観光振興に資する交通基盤等の構築	5(4)① 道路ネットワークの形成推進	新名神高速道路、東海環状自動車道、紀勢自動車道、熊野尾鷲道路等の高規格幹線道路、北勢バイパス、中勢バイパス等の直轄国道の整備の促進等、交流や連携を広げる道路ネットワークの形成を推進します。	<p>○ 災害時の復旧・復興を担うとともに、集積する産業のみならず観光など、地域の今ある力を活かした道づくりに向けて、高規格幹線道路や国直轄道路等の幹線道路や、そのアクセス道路となる県管理道路等の整備を進めました。</p> <p>〈平成 26 年度主な供用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般国道 477 号 四日市湯の山道路：L=4.4km（四日市市～菰野町） ・北勢バイパス：L=1.4km（四日市市内） ・中勢バイパス：L=6.0km（津市内） ・国道 260 号錦峠：L=1.8km（南伊勢町内） ・県道神戸長沢線：L=1.0km（鈴鹿市内） ・県道久居河芸線（雲出野田バイパス）L=0.8km（津市内、中勢バイパス関連） ・県道久居河芸線（五軒町バイパス）L=0.2km（津市内、中勢バイパス関連） ・県道津久居線（半田バイパス）L=0.5km（津市内、中勢バイパス関連） <p>〈平成 26 年度の主な成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊野道路新規事業化 <p>【県土整備部道路企画課、新名神推進課、道路建設課】</p>
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(4) 観光振興に資する交通基盤等の構築	5(4)② 交通網の整備促進や空港等の利用促進	関係団体と連携し、中部及び関西国際空港の利用促進や国際拠点空港としての機能充実、中部国際空港への海上アクセスの利用促進、リニア中央新幹線の早期全線整備や県内駅設置、鳥羽伊良湖航路の維持、広域的な鉄道路線の利便性向上等に向けた取組を進めます。	<p>○ 中部国際空港および関西国際空港の国際拠点空港としての機能充実等を図るため、関係自治体や経済団体と連携し、利用促進等の取組を実施しました。</p> <p>【地域連携部交通政策課】</p> <p>○ 本県と中部国際空港を結ぶ海上アクセスについて、津市、松阪市及び海上アクセス運航事業者等と連携してPR用パンフレットを作成・配布するなど、利用促進に取り組みました。</p> <p>【地域連携部交通政策課】</p> <p>○ 本県と関係市町等で構成する「リニア中央新幹線建設促進三重県期成同盟会」にて建設促進大会を開催し、JR東海や国等に対して、全線同時開業、県内ルートや駅位置の早期公表等について要望活動を行いました。</p> <p>【地域連携部交通政策課】</p> <p>○ 名古屋以西の中間駅設置予定県である奈良県や両県の経済団体と連携・協力し、三重・奈良ルートによる全線同時開業に向けた建設促進会議を開催するとともに、国等への要望活動を行いました。</p> <p>【地域連携部交通政策課】</p> <p>○ 東京・大阪間の沿線都府県で構成する「リニア中央新幹線建設促進期成同盟会」にて、国やJR東海等関係機関に対して東京・大阪間の全線早期整備に向けた国等への働きかけを行いました。</p> <p>【地域連携部交通政策課】</p>

大項目	中項目	小項目	計画書の本文	平成 26 年度観光施策の取組状況
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(4) 観光振興に資する交通基盤等の構築	5(4)③ 熊野古道シャトルバス、二次交通の充実	名古屋駅と熊野古道の各峠を結ぶシャトルバスを関係市町と共同運行し、観光旅行者に対して安定的な動線を提供します。また、周遊バス、レンタカー、観光タクシー等が組み込まれた旅行商品等を通じて、二次交通対策の充実を図ります。	<p>○ 東紀州関係市町（尾鷲市、熊野市、紀北町）と連携してシャトルバスを運行しました。また、シャトルバスのさらなる利用促進のため、関係市町等との定期的な協議を行い、地域の観光資源を活用した旅行商品造成やシャトルバス利用者を対象としたお買物クーポン企画の実施や、利用客の多い名古屋地区でのイベント等におけるPR活動を行いました。</p> <p>平成 26 年度のシャトルバスの利用人数は 4,286 人（前年度比 112.1%）でした。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局観光誘客課】</p>
5 利便性・快適性に優れた観光の基盤づくり	(4) 観光振興に資する交通基盤等の構築	5(4)④ パーク&バスライドへの支援	伊勢神宮内宮周辺で年末年始やゴールデンウィーク時に発生する渋滞の解消に向け、「伊勢地域観光交通対策協議会」が行うパーク&バスライドの取組を支援します。	<p>○ 伊勢地域観光交通対策協議会及び同部会に参加し、事務局の伊勢市をはじめ、国、県、周辺市、民間、住民等の関係機関等と、年末年始やゴールデンウィークに加えて、お白石持ち行事、遷宮などを控え、パーク&バスライドやその情報発信等の交通対策に関する検討を行いました。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p> <p>○ このほか、伊勢交通円滑化検討会 WG に参加し、事務局の三重河川国道事務所をはじめ、国、県、伊勢市及び関係団体と、年末年始やゴールデンウィークのパーク&バスライドなどの交通対策に関する検討を行い、上記協議会・部会と連携した取組を行いました。</p> <p>【雇用経済部観光・国際局観光政策課】</p>

5 推進体制の整備

(1) 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、市町や観光事業者等との役割分担を踏まえつつ、連携・協力しながら取り組んでいます。

平成 26 年度は、「三重県観光キャンペーン推進協議会」において、官民一体で「三重県観光キャンペーン～実はそれ、ぜんぶ三重なんです！～」を展開するとともに、協議会の中の「地域部会」においては、参加機関が一体となって地域の魅力や特色を活用した事業の実施に取り組みました。

また、県の推進体制としては、引き続き「三重県観光審議会」に観光振興について調査・審議いただくとともに、庁内の関係部局等との緊密な連携と調整を行う場として「三重県観光振興担当者会議」を設置し、計画の進行管理のほか、情報共有や課題検討を行いました。

さらに、多様な団体が参画する（公社）三重県観光連盟、（公社）伊勢志摩観光コンベンション機構、東紀州地域振興公社等とも、継続的に連携・協力しながら取り組を進めました。

(2) 観光統計の整備

平成 26 年度は、三重県観光客実態調査について、調査員説明会における調査の趣旨説明の実施や、調査票の見直し、調査の注意点の調査員への徹底などにより、調査精度の向上に取り組みました。

また、前年の「観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書」を見直し、よりわかりやすくする工夫として、新たに結果概要を作成しました。

さらに、多くの方が容易に観光統計のデータを入手できるよう、観光レクリエーション入込客数をホームページに掲載しました。

(3) 計画の進行管理

平成 25 年度の年次報告書を取りまとめ、三重県議会への報告や三重県観光審議会における審議などを通じて、今後の観光施策の方向性を確認しつつ、適切な進捗管理に努めました。